

令和 7 年度
(2025)
事業報告書



素心の会「ロゴマーク」

「句読点」を意味する

これまでの自分、これからの自分

《社会福祉法人 素心の会》
特別養護老人ホーム素心苑
短期入所素心苑
特別養護老人ホーム八戸素心苑
短期入所八戸素心苑

【目次】

1、法人の基本方針・主な取り組み	1・2
2、法人運営	3
1) 評議員会 2) 理事会	
3、社会福祉法人「素心の会」沿革	4・5・6
4、職員採用・退職・在職者状況	7
5、苑外（公費）研修参加状況	8・9

《特別養護老人ホーム素心苑》

① 生活相談員

特養 10・11・12・13

ショートステイ 14・15

ご入居ご家族のご利用満足度調査 16

② 栄養士活動報告 17・18

③ 研修委員会活動報告 19・20

④ 事故防止対策委員会活動報告 21・22

⑤ オレンジ委員会活動報告 23・24・25

⑥ さわやか（排泄・食事・口腔）委員会報告 26・27・28・29・30

⑦ 広報・サークル委員会活動報告 31

⑧ 感染・褥瘡対策委員会活動報告 32

⑨ 業務改善向上委員会 33

《特別養護老人ホーム八戸素心苑》

① 生活相談員

特養 34・35・36・37

ショートステイ 38

ご入居ご家族のご利用満足度調査 39

② 栄養士活動報告 40・41

③ 研修委員会活動報告 42

④ 事故防止対策委員会活動報告 43・44

⑤ オレンジ委員会活動報告 45

⑥ さわやか（排泄・食事・口腔）委員会活動報告 46・47・48・49・50

⑦ 広報委員会活動報告 51

⑧ 感染・褥瘡対策委員会活動報告 52

⑨ 業務改善向上委員会 53

令和7年度（2025）事業報告

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

法人の基本方針

【法人理念】

感謝をもって誠を尽くす

【運営方針】

穏やかにゆっくり暮らす もう一つの家族をめざして
「ともに暮らし ともに生きる」

【法人事業】

地域密着型ユニット型特別養護老人ホーム素心苑
短期入所生活介護素心苑
地域密着型ユニット型特別養護老人ホームサテライト八戸素心苑
短期入所生活介護八戸素心苑

【施設スローガンと目標】

【素心苑スローガン】 再生～つながる素心苑～ * 重点目標 1 ステップアップ 成長 自律 2 入居者・家族・地域支援員の 心の繋がり（多職種 事務員関係なく 素心苑はみんなが支援員） 3 快適な排泄支援	【八戸素心苑スローガン】 一致団結 * 重点目標 1 支援員一人ひとりが自律した思考で 自主性を養う。 2 関わる全ての人を思いやる心・支え 合う心を持つ 3 多職種協働のチームケアを目指しそ れぞれの専門性を発揮し支援する。
--	--

【主な取り組み】

1, サービス向上の充実

施設自己評価を青森県介護サービス情報公開資料及び日本ユニットケア推進センター施設評価票を基に課題と取り組みを強化した。さらに労働基準監督署調査の指導事項については速やかな改善に努めた。

2, 感染対策（蔓延防止対策）

主に地域ではコロナ感染症対応を要した。BCP を基に適性判断に努め施設感染蔓延予防に努めた。行政報告年間件数 素心苑 0 件・八戸素心苑 1 件でした。

3, 家族会・地域交流活動の充実

主な活動である「看取り」「ACP」研修会の定着と、地域行事や地域活動のボランティア参加・公演講師・定期季刊誌発行等を通じて法人活動周知に努めた。

4, ユニットリーダー研修実地研修施設役割行使

八戸素心苑初リーダー研修受け入れ・素心苑は多くの施設見学対応を行った。

素心苑 2018 年認定 (2024 年 4 回目更新)

八戸素心苑 2025 年認定 (2026 年初更新調査)

* リーダー研修受入 素心苑 21 名 (総計 244 名)・八戸素心苑 14 名 (新)

* 施設見学者 素心苑約 60 名・八戸素心苑約 20 名

5, 介護福祉士養成校・看護師専門学校の実習生受け入れと新卒者継続採用

* 八戸素心苑 (介護実習生 2 名・看護師実習生 4 名)

* 介護福祉士新採用者 1 名 (連続 4 年目)

6, 資格取得応援体制強化により安全ケアの質担保と士気向上に繋がった。

ユニット介護職員有資格 * 介護福祉士 素心苑 92% 八戸素心苑 88%

* 特定医療行為喀痰吸引 素心苑 67% 八戸素心苑 59%

7, 業務継続計画 (自然災害・感染症) と環境整備に努めた。

①BCP 実践と見直し (検討・研修・訓練) ②素心苑建物屋根修繕完了

③八戸素心苑・給湯器工事終了・駐車場拡張整備完了

8, 働き方改革取り組み経過

2022 年	LIFE (科学的介護情報システム) 対応・IT 導入整備情報共有一元化等
2023 年	業務改善向上委員会発足 (4 月) 時間外勤務減少対策・有休消化連休取得推進・提出書類様式の簡素化等
2024 年	業務改善委員会発足・年間活動結果報告 (R5/R6 比較) 主要項目 ①有休消化率向上 (全体及び各職種別統計) ②時間外勤務時間短縮 (全体及び各職種別統計) ③基本給改定・処遇改善手当付与支給 ④夜勤手当改定 ⑤全職員の変則シフト導入 ⑥職員定着化 他
2025 年	業務改善の具体的取り組み年間活動結果報告 (R6/R7 比較) ・外部 ICT 研修会 苑内学習会 (デモ機) 推進 ・短期利用者地域連携システム導入開始 ・ケアハートコラボ立ち上げ準備 (素心苑) ・業務改善推進 (生産性向上推進体制加算Ⅱ)

法人運営

1 評議員会

定時評議員会

開催日：令和7年6月17日（火）

- 審議事項 ・ 令和6年度事業報告・決算関係書類等の件
・ 定款変更の件
・ 任期満了に伴う理事及び監事選任の件
・ 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の件

2 理事会

	開催日	審議事項
第1回	令和7年5月 23日（金）	・ 令和6年度事業報告・決算関係書類等の件 ・ 任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任の件 ・ 定款変更の件 ・ 新理事候補者の推薦の件 ・ 定時評議員会の日時・場所・議題等の件 ・ 任期満了に伴う理事及び監事候補者の推薦の件 ・ 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規定改定の件
第2回	令和7年6月 17日（火）	・ 理事長選任並びに施設長選任の件
第3回	令和7年9月 24日（水）	・ 素心苑外壁等修繕の件 ・ 令和7年度補正予算の件 ・ 就業規則改正の件 ・ 育児介護休業規定改正の件
第4回	令和8年3月 25日（水）	・ 令和7年度第2回補正予算（案）の件 ・ 就業規則改正（案）の件 ・ 給与規定改正（案）の件 ・ キャリアアップ規定改正（案）の件 ・ 育児介護休業規定改正（案）の件 ・ 令和7年度施設自己評価報告書（案）の件 ・ 令和8年度事業計画書（案）の件 ・ 令和8年度当初予算（案）の件

社会福祉法人「素心の会」歩み				(令和8年3月31日現在)	
年 月 日	特別養護老人ホーム素心苑 (本部)	月 日	特別養護老人ホームサテライト八戸素心苑		
平成25年度 (2013)	3月4日 青森県知事「社会福祉法人素心の会」設立認可 (指令第379号)				
	3月8日 「社会福祉法人 素心の会」登記完了				
	4月1日 事務職員採用				
	10月1日 特別養護老人ホーム素心苑の着工				
	1月16日 支援員など直接処遇職員採用開始				
平成26年度 (2014)	4月30日 特別養護老人ホーム素心苑竣工引渡し				
	5月9日 三八県民局より医務室の診療所開設許可 (指令第1412号)				
	5月11日 事務室開設 ベッド 備品等搬入開始				
	5月18日 竣工祝賀会[アビル五戸]開催				
	5月28日 青森県知事 特別養護老人ホーム設置認可 (指令第1354号) 定員：特養29床 短期10床				
	5月28日 五戸町より地域密着型介護老人福祉施設の指定 (五戸町指令第219号)				
	5月28日 青森県知事 指定短期入所生活介護事業業者指定 (指令1355号)				
	6月1日 特別養護老人ホーム入居者開始				
	6月25日 青森県 生活保護法指定介護機関指定 (青県福第821号)				
	8月1日 五戸町福祉避難所協定				
平成27年度 (2015)	10月1日 短期入所事業開始				
	3月27日 素心苑家族会発足				
	3月31日 短期入居事業閉鎖				
	5月1日 新施設長就任				
	4月1日 短期入居事業再開				
平成28年度 (2016)	6月7日 喫茶営業許可				
	6月9日 素心苑敷地内駐車場整備				
	9月1日 宿直体制再開				
	11月27日 木鶏会開始				
	2月28日 評議員選任・解任委員会開催	11月14日	平成28年度八戸市地域密着型サービス設置候補者選定		

素心の会沿革 No2

年 月 日	特別養護老人ホーム素心苑 (本部)	月 日	特別養護老人ホームサテライト八戸素心苑
平成29年度 (2017)	4月1日 評議員委嘱状付与		施設八戸素心苑設立許可
	5月1日 Facebook開設		登記完了
	5月10日 災害協力隊立創設、素心苑キウィフルーツ植樹		
	6月22日 役員改選 (理事・監事) ・定時評議員会		
	7月1日 嘱託医変更 (奥寺医師から五戸総合病院榎名医師)		
	8月22日 ユニットリダー研修実施施設認定調査・認定許可 (10月)		
	2月23日 青森県介護サービス施設事業所認証認定	3月26日	八戸市より地域密着型介護老人福祉施設の指定 (八戸市指令 第1231号)
	7月24日 ユニットリダー実地研修生受け入れ開始	6月1日	特別養護老人ホーム八戸素心苑の着工
平成30年度 (2018)	2月23日 青森県介護サービス施設認証 (県内19番目)	10月1日	八戸素心苑職員採用開始・採用者研修開始
		2月28日	竣工引渡し
		3月1日	職員移動・開設準備 (備品・買い物・研修会等)
		3月12日	三八県民局医務室診療所開設許可 (指令第742号)
		3月16日	ペット/備品等搬入開始
		8月21日	八戸学院短期大学介護福祉科介護実習生受入開始
		4月1日	開設 特養入居開始・宿直開始・家族会開始
	5月2日 モッコウバラ10本植樹	5月15日	運営推進会議開始
平成31年度 (2019)	10月23日 ユニットリダー研修実地研修施設更新調査	5月21日	家族会総会
	10月31日 青森県指導監査	10月1日	短期入所利用開始
	3月3日 政府コロナ対策緊急事態宣言	10月31日	青森県指導監査
	3月25日 評議員定数改正	11月22日	八戸市福祉避難所協定締結
		1月20日	八戸市指導監査
		3月3日	政府コロナ対策緊急事態宣言

素心の会沿革 No3			
年 月 日	特別養護老人ホーム素心苑（本部）	月 日	特別養護老人ホームサテライト八戸素心苑
令和2年度 (2020)	12月11日 除雪機購入	7月6日	物置設置・農園設置
	12月15日 電話・IT配線改修	1月27日	避難通路・居室外柵改修
	2月3日 リーダー実地研修生受入れ休止（コロナ）	12月15日	電話・IT配線改修・居室など電灯スイッチ位置調整工事
	2月9日 五戸町指導監査	2月12日	八戸市指導監査（書面）
	3月8日 八戸学院短期大学介護福祉科介護実習生受入開始	3月8日	八戸学院短期大学介護福祉科介護実習生受入開始
令和3年度 (2021)	4月 素心苑コロナ注射開始	4月24日	八戸素心苑コロナ注射開始
	5月 物置小屋設置 除雪機納庫設置	8月1日	科学的介護情報システム（LIFE）開始
	8月1日 科学的介護情報システム（LIFE）開始 薔薇花アーチ設置	12月31日	介護ソフトリライⅡ契約終了 テクノル新契約
	9月1日 除雪機購入 「素心苑」看板高さ調整工事	3月1日	非常災害時対応整備
	9月15日 正面入口照明塔設置		
	12月31日 介護ソフトリライⅡ契約終了 テクノル新契約		
	3月1日 非常災害時対応整備		
	4月11日 コロナ感染症短期入所4月11日～4月30日閉鎖	2月20日	通信環境整備完了（県補助整備）
令和4年度 (2022)	7月26日 コロナ感染症短期入所7月26日～8月31日閉鎖		
	10月15日 物品庫周囲駐車場地盤整備		
	1月27日 青森県施設指導監査 リーダー実地研修生受入れ再開		
	2月20日 通信環境整備完了（県補助整備）		
	11月14日 内部喫茶開始	11月14日	八戸市指導監査
令和5年度 (2023)	12月13日 ガス乾燥機4台設置・PC5台購入追加	12月13日	PC4台追加購入
	1月9日 青森県介護サービス認証施設更新調査（リモート）	1月9日	除雪応援契約
	2月22日 五戸町指導監査	3月19日	喫茶営業許可
	4月1日 素心苑嘱託医師西口内科へ変更	5月4日	ユニットリーダー実地研修施設新規応募 聖暈交換・真美配線工事
令和6年度 (2024)	5月4日 ユニットリーダー実地研修施設更新調査説明会 楠木伐採	10月18日	災害協力隊協定結成第一回総会
	6月21日 新理事長（2代目）就任 ユニット量交換	10月28日	ユニットリーダー実地研修施設新規調査
	8月11日 ユニットリーダー実地研修施設更新調査 合格（12月16日通知）	12月16日	駐車場土地購入整備 全館給湯器修繕終了
	4月1日 素心苑嘱託医師五戸総合病院へ変更	4月1日	ユニットリーダー実地研修施設合格 実習生受入れ開始
令和7年度 (2025)	6月27日 10周年記念誌完成・記念植樹（ヒノデツツジ20本・山ぼうし1本）		
	12月10日 建物屋根改修工事・スプリンクラー・井水電機修繕工事		

職員採用・退職・在職者状況

2026/3/31現在

(1) 採用

(単位：人)

	職 種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常勤	支援員	3				3					1			7
	看護職員													
	生活相談員													
	栄養士													
	事務員													
	その他													
	小 計	3				3					1			7
非常勤	支援員													
	看護職員													
	事務員													
	その他			1					1					2
	小 計			1					1					2
合 計		3		1		3			1		1			9

(2) 退職

(単位：人)

	職 種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常勤	支援員		1		1	1	2	1		1			1	8
	看護職員													
	生活相談員													
	栄養士													
	事務員												1	1
	その他													
	小 計		1		1	1	2	1		1			2	9
非常勤	支援員													
	看護職員										1	1		2
	事務員													
	その他				1									1
	小 計				1						1	1		3
合 計			1		2	1	2	1		1	1	1	2	12

(3) 在職者数 (各月末)

(単位：人)

	職 種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常勤	支援員	49	48	48	47	49	48	47	46	46	46	46	46	566
	看護職員	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	生活相談員	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	事務員	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	35
	その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	小 計	62	61	61	60	62	61	60	59	59	59	59	58	721
非常勤	支援員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	看護職員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	3	57
	用務員	5	5	6	6	5	5	5	6	6	6	6	6	67
	その他													
	小 計	12	12	13	13	12	12	12	13	13	13	12	11	148
合 計		74	73	74	73	74	73	72	72	72	72	71	69	869

【離職率】

対象職種等 / 拠点等	素心苑		八戸素心苑		法人全体		算定基礎	
全職種	13.5%	37 5	21.9%	32 7	17.4%	69 12	分母	R8.3月末在職者数
							分子	R7年度退職者数
支援員・看護職員	14.3%	28 4	22.2%	27 6	18.2%	55 10	分母	R8.3月末在職者数(支援員・看護職員)
							分子	R7年度退職者数(支援員・看護職員)
支援員	12.5%	24 3	20.8%	24 5	16.7%	48 8	分母	R8.3月末在職者数(支援員)
							分子	R7年度退職者数(支援員)

苑外（公費）研修参加状況 素心苑

研修日/研修期間		主 催 研 修 内 容	場 所	申込人数	参加人数
1	R7 4/9-10、7/3、9/11 11/13	株式会社セミナー東北 「2025年新入社員フレッシュアップセミナー・フォローアップセミナー・レベルアップセミナー・ブラッシュアップセミナー」	八戸市	1	1
2	R7 4/23	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットケア研修等事業関係者連絡会」	東京都	2	2
3	R7 4/23	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「高齢者福祉施設における口腔ケアの学習会」	オンライン	4	4
4	R7 4/25	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットリーダー研修実地研修 受入れに関する説明会」	オンライン	3	3
5	R7 5/14-15	㈱はいせつ総合研究所 むつき庵 「2025年度 おむつフitter3級研修会」「おむつ検定」	青森市	2	2
6	R7 5/14-16、6/2-3、 8/18-19、11/19-21 R8 3/17	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットケア指導者養成研修」	東京都	1	1
7	R7 5/15	積水ホームテクノ株式会社 「監査にしないための運営指導対応のポイントについて」	オンライン	1	1
8	R7 5/29、30	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットリーダー研修 集合研修」	岩手県	1	1
9	R7 6/2	八戸地域介護サービス協議会 「第1回研修会 法人決算の見方」	八戸市	1	1
10	R7 6/13	社会福祉法人青森県社会福祉協議会 「社会福祉法人運営の基本対策セミナー」	オンライン	1	2
11	R7 6/16	社会福祉法人青森県社会福祉協議会 「令和7年度 あおもり介護生産性向上推進セミナー」	青森市	2	2
12	R7 6/25、7/3	株式会社エクサホームケア 「7月末提出期限の処遇改善加算実績報告書」	オンライン	1	1
13	R7 6/30-7/1、7/11-12 7/14-8/10、9/24	公益社団法人 青森県老人福祉協会 「令和7年度 青森県認知症介護実践研修（実践者研修）」 第1回 八戸会場	八戸市	1	1
14	R7 7/1-24、9/28 11/1-R8 3/6	青森県高齢福祉保険課（研修機関：公益社団法人青森県老人福祉協会） 「令和7年度 喀痰吸引等研修 1号2号研修」	青森市	1	1
15	R7 7/17	八戸・上十三地域メディカルコントロール協議会 「DNARプロトコル説明会」	オンライン	3	3
16	R7 7/18	株式会社エイデル研究所 「処遇改善加算取得セミナー」	オンライン	1	1
17	R7 7/30、31	社会福祉法人青森県社会福祉協議会 「令和7年度 職場研修担当者研修会」	青森市	2	2
18	R7 8/9、8/30	青森県健康医療福祉部 保健衛生課 「令和7年度 青森県感染対策特別研修会（集合研修）」	十和田市 八戸市	8	6
19	R7 8/20	公益社団法人 青森県介護支援専門員協会 「令和7年度 青森県介護支援専門員及び多職種協働研修」	オンライン	1	7
20	R7 9/3-11/29	公益社団法人 青森県老人福祉協会 「令和7年度 青森県認知症介護実践研修（実践リーダー研修）」	青森市	2	1
21	R7 9/10	五戸消防署 「社会福祉施設合同救急研修会」	五戸町	1	1
22	R7 9/10	株式会社エイデル研究所 「令和7年度 青森県介護サービス事業所認証評価制度セミナー」	オンライン	1	1
23	R7 9/11	島守経営労務事務所 「地方における人材確保・人材定着対策」	八戸市	1	1
24	R7 9/26 R8 2/19	株式会社エイデル研究所 「リーダー層のための人事・労務管理セミナー」	オンライン	2	3
25	R7 9/30	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度 ユニットケアセミナー」	宮城県	3	3
26	R7 10/28	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「経営に関する学習会」	愛知県	1	1
27	R7 10/29	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度 第2回ユニットケア研修等事業関係者連絡会、懇親会」	愛知県	2	2
28	R7 10/29	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「学習会『動き出しは本人から～入居者の思いに気づく、力を活かすコミュニケーションとは～』」	オンライン	4	4
29	R7 11/5、6	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「ユニットリーダー研修実地研修施設 東北ブロックフォローアップ研修2025」	福島県	3	3
30	R7 11/20	青森保健大学 キャリア開発センター 「令和7年度社会福祉法人施設職員経理研修」	オンライン	1	1
31	R7 12/22	青森県 高齢福祉保険課 介護保険グループ 「令和7年度認定調査従事者現任者研修」	オンライン	1	1
32	R8 1/22	八戸学院大学短期大学部 「令和7年度 介護事例研究報告会」	八戸市	1	1
33	R8 1/23	五戸町介護支援課 高齢者支援班（地域包括支援センター） 「令和7年度 在宅医療・介護連携推進に関する研修会」	五戸町	2	2
34	R8 3/5	八戸地域介護サービス協議会 「栄養士部会研修会」	八戸市	1	1
			合計	63 人	68 人

苑外（公費）研修参加状況 八戸素心苑

研修日		主 催 研 修 内 容	場 所	申込人数	参加人数
1	R7 4/23	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットケア研修等事業関係者連絡会」	東京都	1	1
2	R7 4/23	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「高齢者福祉施設における口腔ケアの学習会」	オンライン	4	4
3	R7 4/25	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットリーダー研修実地研修 受入れに関する説明会」	オンライン	1	1
4	R7 5/14-15	(株)はいせつ総合研究所 むつき庵 「2025年度おむつフィッター3級研修会」「おむつ検定」	青森市	2	2
5	R7 5/22	八戸市福祉部介護保険課 「令和7年度第1回八戸市介護サービス事業者集団指導」	オンライン	1	2
6	R7 5/29、30	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度ユニットリーダー研修 集合研修」	盛岡市	1	1
7	R7 6/16	社会福祉法人青森県社会福祉協議会 「令和7年度 あおもり介護生産性向上推進セミナー」	青森市	2	2
8	R7 6/17	八戸学院大学短期大学部 「介護実習Ⅳ介護実習指導会議」	八戸市	2	2
9	R7 6/30-7/1、7/11-12 7/14-8/10、9/24	公益社団法人 青森県老人福祉協会 「令和7年度 青森県認知症介護実践研修（実践者研修）」 八戸会場	八戸市	1	1
10	R7 6/18-6/27、7/1-24 9/28、11/1-R8 3/6	青森県高齢福祉保険課（研修機関：公益社団法人青森県老人福祉協会） 「令和7年度 喀痰吸引等研修 1号2号研修」	青森市	2	2
11	R7 8/30	青森県健康医療福祉部 保健衛生課 「令和7年度 青森県感染対策特別研修会（集合研修）」	八戸市	4	2
12	R7 9/3-11/29	公益社団法人 青森県老人福祉協会 「令和7年度 青森県認知症介護実践研修（実践リーダー研修）」	青森市	2	1
13	R7 9/30	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度 ユニットケアセミナー」	宮城県	2	2
14	R7 10/29	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「2025年度 第2回ユニットケア研修等事業関係者連絡会、懇親会」	愛知県	1	1
15	R7 10/29	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「学習会『動き出しは本人から～入居者の思いに気づく、力を活かすコミュニケーションとは～』」	オンライン	4	4
16	R7 11/5、6	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター 「ユニットリーダー研修実地研修施設 東北ブロック フォローアップ研修 2025 in 福島」	福島県	2	1
17	R7 11/21	八戸食品衛生協会 「ノロウイルス食中毒予防と対策講習会」	八戸市	1	1
18	R7 11/26	株式会社エイデル研究所 「スキルアップセミナー OJT指導者研修」	オンライン	1	1
19	R8 1/22	八戸学院大学短期大学部 「令和7年度 介護事例研究報告会」	八戸市	1	1
			合計	35 人	32 人

活動実地報告（生活相談員）素心苑

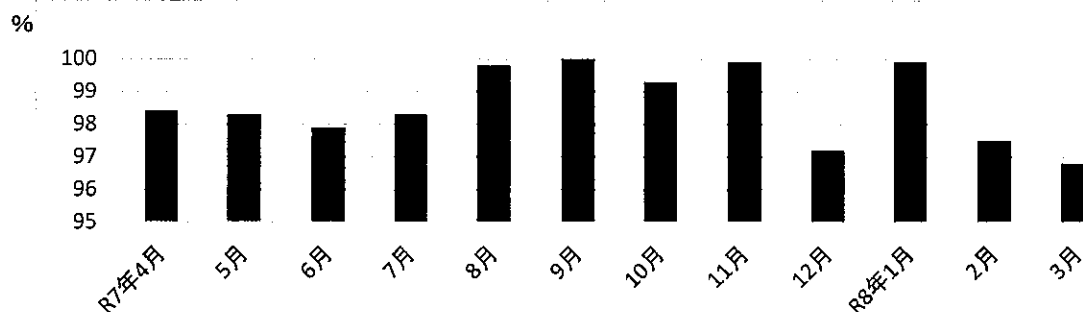
【特養】

1) 入居の利用状況（請求実績より）

	入居者数（人）			満床時延べ人数（人）	定員（人）	延人数（人）	稼働率（％）
	男性	女性	合計				
R7年4月	4	25	29.0	870	29	856	98.4
5月	4	25	29.0	899	29	884	98.3
6月	4	25	29.0	870	29	852	97.9
7月	4	25	29.0	899	29	884	98.3
8月	3	26	29.0	899	29	897	99.8
9月	3	26	29.0	870	29	870	100
10月	3	26	29.0	899	29	893	99.3
11月	3	26	29.0	870	29	869	99.9
12月	4	25	29.0	899	29	874	97.2
R8年1月	4	25	29.0	899	29	898	99.9
2月	4	25	29.0	812	29	792	97.5
3月	4	25	29.0	899	29	870	96.8
合計	44	304	348.0	10,585	348	10,439	1183
平均	3.7	25.3	29.0	882	—	870	98.6
令和6年	5.1	23.9	29.0	882	—	862	97.7
令和5年	4.3	24.8	29.0	882	—	863	97.9
令和4年	4.9	24.1	29.0	882	—	858	97.2

・入居者数は月請求のある人数。

* 稼働率の推移 *



2) 入院の状況

① 入院日数 入院日と退院日は滞在日としている

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延日数	2	8	11	12	0	0	0	1	11	0	20	29	94
対象者数	2	1	2	1	0	1	0	1	1	0	2	2	13
6年度対象者数	2	0	3	1	1	2	3	3	2	2	0	1	20
5年度対象者数	1	1	5	4	0	2	5	1	2	2	2	1	26
4年度対象者数	3	2	5	1	3	2	2	4	2	2	0	4	30
月平均入院日数：日					月平均入院者数：人								

* 入院者の居室をショート有空床利用としている日数は、ショートステイ利用日数に標記している。

昨年度と比較して特養平均稼働率は0.9%上がりました。昨年度の入院延日数は164日(令和7年度94日)70日間差異で大幅に減少しました。さらに入院者数減も加わり稼働率上昇に繋がった。

3) 入退居状況

入居者						退居者				
性別	年齢	要介護度	寝たきり度	認知症自立度	入居前	性別	年齢	要介護度	入居期間	退居理由
女	92	4	J2	I	病院	女	89	5	1998日間	看取り
女	91	4	C2	IV	老健	女	89	4	217日間	看取り
女	90	3	B1	Ⅱa	老健	女	99	5	320日間	看取り
女	89	4	C2	Ⅲa	老健	男	88	5	1421日間	看取り
女	84	5	C1	Ⅲa	病院	女	92	4	181日間	看取り
女	89	4	A1	Ⅱb	在宅	女	96	5	1日間	入院
女	96	5	不明	不明	在宅	女	94	4	37日間	看取り
女	94	4	B2	Ⅲa	病院	女	95	5	1709日間	看取り
女	78	5	B2	Ⅲa	在宅	女	91	5	247日間	看取り
男	82	4	B2	Ⅲa	老健					
女	105	4	B2	Ⅲa	病院					
合計					11名	合計				9名

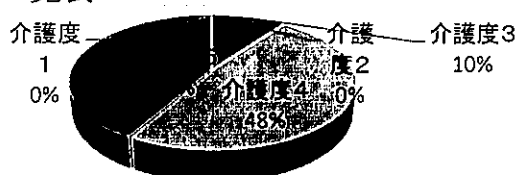
令和7年度の入居者は11名、退居者は9名（施設看取り 8 名・入院 1 名）・令和7年度の退去者 2 名
入居前住処（病院4名、老健4名、在宅3名）

4) 入居者の介護度

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	割合（％）
介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
介護度2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
介護度3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.9	10.0
介護度4	14	14	14	14	15	15	14	13	15	14	13	13	14.0	48.3
介護度5	13	12	12	12	11	11	12	13	11	12	13	13	12.1	41.7
平均介護度	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3

介護度一覧表

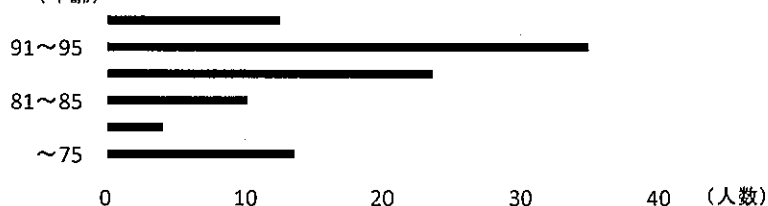


平均介護度は4.3 入居待機者の重度化が進み、令和7年度入居者9名内介護度3は1名のみでした。昨年に引き続き平均介護度4以上を維持しています。

5) 年齢構成

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	割合（％）
～75	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00	14
76～80	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1.25	4
81～85	2	2	2	4	3	3	3	3	3	3	4	4	3.00	10
86～90	8	8	8	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6.90	24
91～95	10	10	10	10	11	11	10	10	10	10	10	10	10.20	35
96～	4	4	4	3	3	3	4	3	4	4	4	4	3.70	13
平均年齢	88.3	88.5	88.6	88	88.1	88.2	88.4	88	88.5	88.6	88.7	88.7	88.4	100

（年齢）



令和7年度の入居者最高齢105歳99歳2名。85歳以上が全体の7割を占め、75歳以下の入居者も増えて年齢差が大きくなっています。

6) 入居者の移動等状況（年度末現在）

（単位：人）

	一人で歩く	杖・手引き	シルバーカー・歩行器	一般型の車椅子	リクライニング車椅子	合計
令和7年度末	1	2	3	19	4	29
令和6年度末	2	1	2	15	9	29
令和5年度末	1	1	1	18	8	29
令和4年度末	0	1	2	17	9	29

* 参考情報（年度末）

（単位：人）

認知症高齢者の日常生活自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計	
	1	1	2	11	10	3	1	29	Ⅲ以上25名
障害高齢者の日常生活自立度	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
	0	0	2	3	3	11	6	4	29

7) 入浴支援の状況（年度末現在）

（単位：人）

入浴支援	個浴			大きな個浴 全支援	計
	自立	一部支援	リフト		
真の家	0	2	7	0	9
美の家	0	0	10	0	10
聖の家	0	0	5	5	10
計	0	2	22	5	29

8) 排泄支援の状況（年度末現在）

（単位：人）

	一人でトイレ	支援でトイレ	居室で支援	合計	パンツのみ	綿パンツ+パッド	紙パンツのみ	おむつ+パット
令和7年末	1	25	3	29	1	27	0	1
令和6年末	0	21	8	29	0	28	0	1
令和5年末	0	18	11	29	0	23	0	6
令和4年末	0	19	10	29	0	23	0	6

9) 交流及び会議など

《地域の行事参加・交流》

・ 令和7年4月12日	下大町町内会ゴミ0運動参加(10名参加)
・ 令和7年5月23・24日	ユニットケア実習施設連絡会（4月～3月実習生受け入れ）
・ 令和7年6月中旬	家族会総会（書面にて実施）
・ 令和7年7月1日	家族会主催「アドバンス・ケア・プランニング～人生会議～」
・ 令和6年7月11日	消防訓練(1回目)
・ 令和7年9月29日	入居者搜索訓練
・ 令和7年9月25・26日	川内中学校職場体験受け入れ
・ 令和7年10月11日	家族会主催「安らかな旅立ちを考える」研修会
・ 令和7年10月17日	消防訓練(2回目)
・ 令和7年12月13日	家族会主催年末すす払い

《その他の交流や外出》

- ①広報出版年3回・サークル委員会主催の苑内オンライン体操・レクリエーション・でるでる体操、昼食会、クラブ活動（犬部など）等を定期開催
- ②個別外出を適宜実施しました。（お花見、紅葉狩り、自宅訪問等感染対策し個別外出支援）
- ③「花火大会」
- ④「五戸祭り」
- ⑤第1、3木曜日は喫茶「おひさま」、第2、4木曜日は軽食喫茶

《運営推進会議》

- ・年6回偶数月に開催。入居者の処遇や地域交流などに関する情報共有を行いました。

《入居判定会議》

- ・年4回開催、役場担当者を交えて情報共有及び入居者判定を行いました。

《入居者の処遇等》

- ・年1回、採血・胸部撮影実地。
- ・インフルエンザ、肺炎球菌予防接種の入居者助成手続き等の代行を行いました。

《町への協力》

- ・五戸町地域ケア会議等々に出席しました。

《苦情受付》

令和7年度の苦情相談は無かった。（第3者委員依頼対象者）

苑内検討事案は細やかに多職種で対応策を講じ実施しました。

加算取得状況

《特養》

	内容	加算開始
	看護体制加算Ⅰ1	平成26年6月～
	看護体制加算Ⅱ1	平成26年9月～
	夜勤職員配置加算Ⅱ1	平成27年4月～
	日常生活継続支援加算2	平成27年6月～
	認知症専門ケア加算1	平成29年12月～
	療養食加算	平成30年2月～
	褥瘡マネジメント加算	令和元年8月～
	特定処遇改善加算Ⅰ	令和元年10月～
	排せつ支援加算	令和2年1月～
	栄養マネジメント強化加算	令和3年4月～
	科学的介護推進加算Ⅱ	令和4年4月～
	安全対策体制加算	令和6年4月～
	口腔衛生管理加算Ⅱ	令和6年5月～
	介護職員処遇改善加算Ⅰ	令和6年8月～

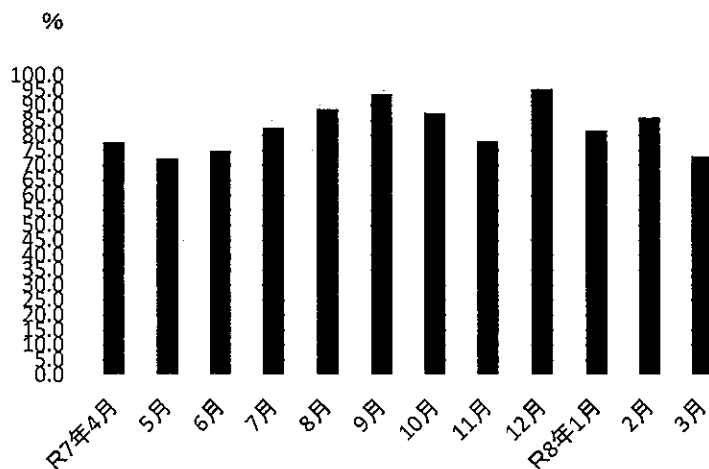
《ショートステイ》

	内容	加算開始
1	送迎加算	平成26年4月～
2	機能訓練加算	平成26年4～9月
3	処遇改善加算	平成26年9月～
4	長期利用者提供減算	平成27年4月～
5	サービス提供加算Ⅰ2	平成28年4月～
6	夜勤職員配置加算Ⅱ	平成28年4月～
7	特定処遇改善加算Ⅱ	令和元年10～令和3年3月
8	特定処遇改善加算Ⅰ	令和3年4月～令和6年3月
9	ベースアップ等支援加算	令和4年10月～令和6年3月
10	看護体制加算（Ⅰ）	令和6年4月～
11	看護体制加算（Ⅱ）	令和6年4月～
12	介護職員処遇改善加算Ⅰ	令和6年8月～

1) ショートステイ利用状況（ショート10床＋特養の空床含む）

	利用者数（人）			満床時延べ人数（人）	空床利用可能数 （延べ利用者数）	空床利用可 （延べ利用者数）	延利用者数 （人）	稼働率（％）
	男性	女性	合計					
R7年4月	6	16	22	300	0	0	233	77.7
5月	6	15	21	310	0	0	224	72.3
6月	5	16	21	300	0	0	224	74.7
7月	6	17	23	310	0	0	256	82.6
8月	10	17	27	310	0	0	275	88.7
9月	4	18	22	300	0	0	281	93.7
10月	7	17	24	310	0	0	271	87.4
11月	6	16	22	300	0	0	234	78.0
12月	7	17	24	310	0	0	296	95.5
R8年1月	8	17	25	310	0	0	253	81.6
2月	7	14	21	290	0	0	249	85.9
3月	8	14	22	310	0	0	226	72.9
合計	80	194	274	3660	0	0	3022	990.8
平均	6.7	16.2	22.8	—	0.0	0.0	251.8	82.6
R6年度	3.3	20.3	23.7	—	0.1	0.1	271.3	88.9
R5年度	6.2	16.3	22.4	—	1.2	1.2	270.2	88.6
R4年度	4.3	15.8	20.2	—	0.1	0.1	233.3	76.7

ショートステイ稼働率の推移



令和7年度は、感染症による利用中止はありませんでしたが、利用者の急な身体の重度化や家族の高齢化を理由に長期入居可能な施設希望者が増加傾向にあります。また、当苑利用予定者の施設入居決定者の突発的な体調変化・入院等で利用中止が多くなっています。さらに、平日は利用料金の安いデイサービス利用者が多く、週末に当苑利用希望者集中で調整困難で稼働率に影響しています。今後も居宅との連携を図り施設情報を密に提供して利用率の向上を目指します。

利用者の要介護度（ショートステイ）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	割合（％）
介護度1	2	1	0	1	1	2	3	2	1	1	1	2	1.4	6
介護度2	6	7	6	7	6	5	5	3	6	7	5	3	5.5	24
介護度3	5	5	5	6	7	6	5	7	6	8	6	6	6.0	26
介護度4	6	6	7	7	9	5	7	6	8	7	8	8	7.0	32
介護度5	2	2	3	2	4	4	4	4	3	2	1	2	2.8	12
平均介護度	3.2	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	
利用人数	21	21	21	23	27	22	24	22	24	25	21	21	22.7	

利用者の要支援度（ショートステイ）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	割合（％）
要支援1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.08	50
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.08	50
平均要介護	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
利用人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.17	

3) 利用者の介護度別利用状況

(単位：人)

	要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		総計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
R7年4月	0	1	2	0	2	4	1	4	0	6	1	1	6	16
5月	0	0	1	0	3	4	2	3	0	6	0	2	6	15
6月	0	0	0	0	3	3	1	4	1	6	0	3	5	16
7月	0	0	0	1	3	4	2	4	1	6	0	2	6	17
8月	0	0	0	1	3	3	3	4	3	6	1	3	10	17
9月	0	0	0	2	2	3	2	4	0	5	0	4	4	18
10月	0	0	2	1	1	4	1	4	2	5	1	3	7	17
11月	0	0	2	0	0	3	2	5	1	5	1	3	6	16
12月	0	0	1	0	2	4	1	5	2	6	1	2	7	17
R8年1月	0	0	1	0	3	4	2	6	2	5	0	2	8	17
2月	0	0	1	0	2	3	1	5	3	5	0	1	7	14
3月	1	0	1	1	1	2	1	5	3	5	1	1	8	14
合計	1	1	11	6	25	41	19	53	18	66	6	27	80	194
平均	0.1	0.1	0.9	0.5	2.1	3.4	1.6	4.4	1.5	5.5	0.5	2.3	6.7	16.2

4) 利用者の市町村別利用状況（延べ人数）

(単位：人)

	五戸町		新郷村		八戸市		おいらせ町		十和田市		南部町		総計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
人数	89	336	21	32	45	19	0	0	0	0	0	0	155	387
合計	425		53		64		0		0		0		542	

5) 居宅介護支援事業所別の延べ利用回数

(単位：回)

五戸町					新郷村	八戸市					おいらせ町
五戸社協	ハビネス五戸	さくら荘	あい愛居宅	ケアプランセンターごのへ	老健しんごう	居宅いぶき	寿楽荘	いこい苑	八戸西	ハビネスやくら	居宅あじさい
57	175	78	0	34	59	25	12	36	2	2	62

年度内緊急時受入加算対象者人数	0人
-----------------	----

居宅事業所数	11事業所
延べ利用者人数	542人

令和7年度は新規居宅の利用者が多く八戸市の利用者の増加が目立った。五戸町の利用者傾向では長期利用のリピーターが多くなっています。引き続き近隣の居宅へ空き情報と施設の特徴を周知して利用増加に努めます。

《ご入居ご家族様のご利用満足度調査》 素心苑

【対象者と配布方法】 入居者2名と特養入居者のご家族29名、ショートステイ定期利用者家族に発送。

【有効回答数】 31枚（100%有効回答率）

【回収方法】 ①各ユニット玄関に回収箱を設置。

②FAXで回答を受付。

③ショートステイ利用者は送迎時に受け取り。

【質問】

1. 職員の対応はいかがですか。(相談しやすいなど)
2. 職員の言葉遣いはいかがですか。(挨拶、返事など)
3. 職員の身だしなみはいかがですか。(服装、髪型など)
4. 職員の電話対応はいかがですか。
5. 気軽に施設職員に相談することができますか。
6. 面会に来た際、ユニットや居室の環境はいかがですか。
(お部屋やユニットの掃除ができているかなど)
7. 素心苑に入居・利用して良かったと思いますか。
8. ご家族自身、自分自身、素心苑を紹介したい施設だと思いませんか。
9. その他、お気づきの点やご意見、ご希望などございましたらお気軽にご記入ください。

【結果】

アンケートの回収率は、令和6年度は4割、今年度は5割と回収率が増えました。増えた理由としては、コロナが5類となり直接面会される方が増え、面会に来られた際にアンケートを記載していただくようお願いしたことが回収率アップに繋がったと考えます。また、アンケート結果も前向きな内容や感謝の気持ちが多く支援員と入居者本人・家族との関係性の良さがあらわれる結果となりました。

9. について

- ・ 母の愚痴を聞いてもらったり、生活環境を親身に考えてもらったり、とても感謝しています。父もショートステイを利用し、ユニットを行ったり来たり好きにさせてもらっています。ありがとうございます。
- ・ どの施設でも断られ、最後に引き受けていただきありがとうございます。実家の母や身内が入所している施設を何か所か見学しましたが、素心苑の理念や運営方針は素晴らしく、頭が下がる思いです。
- ・ 少しの時間でも身体や足を動かす運動を取り入れていただきたいです。
- ・ 年々、実家に通う介護はきついと思うようになりました。特に冬は雪が多く車を出すことができず受診の付添いができないことがありました。そんな時も快く対応していただき助かりました。
- ・ 季刊誌「ピュア」いつも楽しみにしています。
- ・ 迎えに来てくれる職員の方は、どの方も大きな声であいさつをしてくれて気持ちが良いです。また、電話対応も丁寧で感謝しかありません。これからも両親をよろしくお願いします。
- ・ なかなか面会に行けずすみません。必要なことはショートメールをくれるので助かっています。
- ・ おむつに頼らない介護に努力していただき感謝しています。
- ・ 素心苑の食事が気に入っています。転倒に気を遣っていただければ幸いです。

管理栄養士の活動報告 素心苑

1. 普段の食事

- ・調理済食材の注文場所は同じだが、7月より、出荷場所が青森市からいわき市の支店に変更になりました。今後、緊急時の対応について再度検討が必要と思います。汁ものや補食分の食材は、町内の商店やスーパー、隣町にある業者へ注文をし、発注業務を円滑に進めることができました。
- ・日々のおかずの盛り付けや調理を入居者、利用者と一緒に行いました。また、食べる場所を変えて食事をする、汁物や行事食、主食等を選択ができる日を献立に設けることで、日々の食に変化をつけ、おいしく食事ができるように工夫しました。

2. 給与栄養量表

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	Ca	鉄	VA	VB1	VB2	ビタミンC	食物繊維	食塩相当量
平均	1333	47.3	30.5	211.3	438	5.6	393	0.76	0.47	59	9.1	7.9
目標量	1517	51.5	30.5	251.3	607	6.2	678	0.97	1.07	90	17.5	8.0
過不足	88%	92%	90%	84%	72%	91%	58%	79%	44%	65%	52%	99%

- ・調理済食材の使用のため、ミネラルやビタミン類の値の算出が難しい部分もあるが、不足する栄養素に関しては、嗜好調査の内容も含めて、乳製品や果物、野菜ジュース類、完調品の主菜を活用し補っています。また、栄養状態については、個々の必要エネルギーを算出し、それに合わせた食事量を提供し、むくみの有無や排泄状況、体重変化等も合わせて観察し、評価しています。

3. 栄養マネジメントの実施

- ・多職種で連携し、栄養計画書を作成、実施、評価をして入居者個々の栄養管理に努めました。
- ・情報共有は、ユニット会議や委員会、カンファレンス等で実施しました。

4. 加算算定

①療養食加算（1食6単位）

糖尿病食 1200kcal	1名	糖尿病食 1400kcal	2名	糖尿病食 1600kcal	2名
腎臓病食塩分 6.0g未満	3名			合計	8名

- ・昨年度の療養食提供人数が7名だったのに対し、8名と増えています。
- ・糖尿病食を提供する入居者には、ご飯の量や間食の調整や補食の代替え（糖質少ないもの）の検討をし、腎臓病食を提供している入居者には、みそ汁の量を調整し対応しました。また、食べる楽しみも継続しつつ体重やむくみの観察をし、心身ともに無理のないよう工夫しました。

②栄養マネジメント強化加算（1日11単位）

- ・多職種で作成した栄養ケア計画を基に、低栄養状態の場合観察を週3回以上実施しました。
- ・サテライト施設との兼務のため、入居者の食事全般の状態を多職種と密に共有し、状態に変化がある場合は、多職種含めてカンファレンスを開催し、検討や見直しを行いました。

5. 検食

- ・検食は、施設長、生活支援員、看護師、相談員、事務職員、栄養士で実施しました。
- ・おいしいという意見が多い反面、味付けが薄い、おかずが硬いという意見もありました。別な食材と調理する等の調理方法の見直しや食器の工夫等をさわやか委員会内で周知し、改善に努めました。

6. 嗜好調査、残食調査

・9月と2月の年に2回実施しました。結果として、野菜は好きだが、身体状況の変化に伴い硬くて食べることが難しいという人が多かったです。食べたいが、難しくなっているという気持ちを大事にし、切り方や柔らかくして提供することに努めました。

・また、調理済食材を使用しているため提供人数分よりも多く納品されていることに関しては、残食量から実際の1人分の喫食量の平均を出し、予定の提供量と比較し、残食率を算出しました。

7. 食数及び食材費（年間）

食数		常食	ムース食	代替食	メイバランス	処方	合計
特養	今年度	26593	3244	1514	2215	1085	34651
	前年度	24869	892	933	3277	1082	31053
ショートステイ	今年度	7782	0	104	0	213	8099
	前年度	8708	165	0	0	280	9153

・食数について、特養は増加し、ショートステイは減少しています。

・特養では食種をみると、常食増加しているが、嚥下調整が必要なムース食やゼリー食も増加しました。加齢に伴う機能低下が要因となり、嚥下調整が必要な人が増加していることがわかります。今年度も多くの方を看取りました。その際、食べたいものを食べることができる形状にして、最期まで提供しました。本人、家族の意向の可能な限り沿うことができました。

食材費		経口		経管		合計	
		特養	ショート	特養	ショート	特養	ショート
合計	今年度	8,917,596	2,222,889	543,086	0	9,460,682	2,222,889
	前年度	7,870,557	2,828,209	863,963	0	8,734,520	2,828,209
前年度との差		1,047,039	-605,320	-320,877	0	726,162	-605,320

・食材費について、特養は増加し、ショートステイは減少しています。これは、食数の変動によるものです。また、今年度も、野菜類や乾物類、米の価格が高いままで、食材の代替えを検討し、適切な栄養量や満足ある食事を提供することに努めました。

8. 喫茶「おひさま」

・月2回さわやか委員会で実施し、メニューは、まめしとぎやプリンアラモード、なべっこ団子、ワッフル等、洋菓子も和菓子も楽しめるようにメニューを考えました。また、旬の果物を使い季節感を出し、馴染みがあるスイーツを提供しました。

9. 食事に関する研修会

- ・「口から食べる」ことの大切さをさわやか委員会と協同し実施しました。
- ・口腔ケアについて勉強会は、歯科医師や歯科衛生士より指導いただいた内容を含め伝えました。

10. 衛生管理について

- ・家庭でできる食中毒予防の6つのポイントやHACCPの考え方を取り入れた衛生管理をもとに毎日点検し衛生管理に努め、感染対策委員会内で食中毒関連の情報を共有し、予防を呼びかけました。
- ・食中毒予防や感染症対策について感染対策委員会と協同して勉強会をしました。

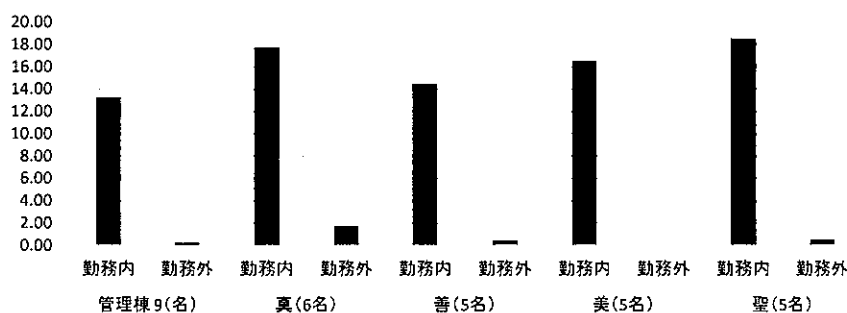
研修委員会活動報告 素心苑

1) 苑内研修（研修参加状況）

（単位 回）

参加者	管理棟 9（名）		真（6名）		善（5名）		美（5名）		聖（5名）	
	勤務内	勤務外	勤務内	勤務外	勤務内	勤務外	勤務内	勤務外	勤務内	勤務外
A	22	0	11	11	21	2	28	0	21	3
B	18	0	21	1	19	0	18	0	24	0
C	15	0	24	0	22	0	13	0	24	0
D	9	0	22	0	24	1	17	0	26	0
E	6	0	20	0	15	0	23	0	16	0
F	5	0	26	0						
G	16	0								
H	13	0								
I	15	2								
合計	119	2	124	12	101	3	99	0	111	3
参加平均回数	13.22	0.22	17.71	1.71	14.43	0.43	16.50	0.00	18.50	0.500

1、苑内研修参加状況（平均）

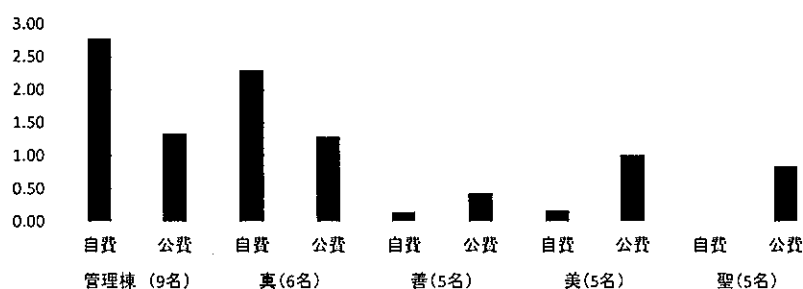


【結果】参加者が増加しました。各部署長の勤務調整が研修参加向上に繋がった。
 【課題】初試行「年間自己評価チェック表」を元に次年度の研修計画に役立てます。

2) 苑外研修

参加者	管理棟（9名）		真（6名）		善（5名）		美（5名）		聖（5名）	
	自費	公費	自費	公費	自費	公費	自費	公費	自費	公費
A	3	0	13	1	0	1	0	5	0	2
B	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1
C	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
D	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0
E	1	2	2	0	0	1	0	0	0	1
F	1	2	0	4						
G	1	2								
H	13	3								
I	6	2								
合計	25	12	16	9	1	3	1	6	0	5
参加平均回数	2.78	1.33	2.29	1.29	0.14	0.43	0.166667	1.00	0.00	0.83

2、苑外研修参加状況（平均）



【結果】

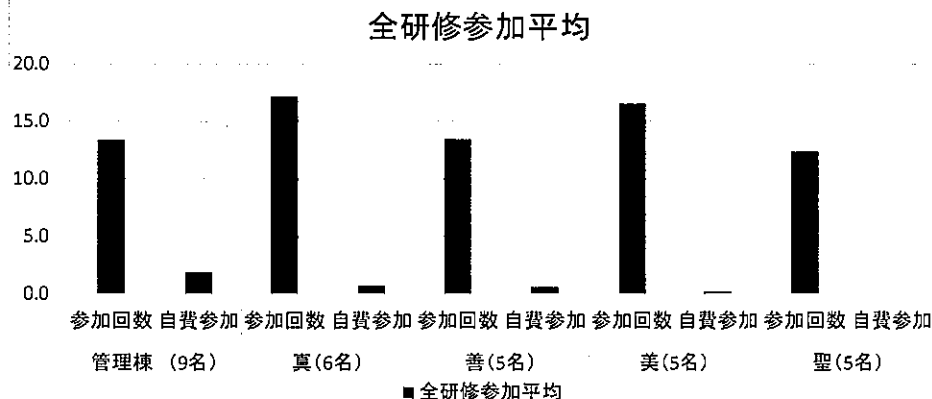
令和7年度は全体的には自費、公費ともに研修参加率が高かった。自費参加者は少ない。

【課題】研修周知方法・個人面談や個人目標の把握に努めて参加意識を高めます。

3) 研修に関する調査

苑内研修＋苑外研修の総計

	管理棟 (9名)		真 (6名)		善 (5名)		美 (5名)		聖 (5名)	
	参加回数	自費参加	参加回数	自費参加	参加回数	自費参加	参加回数	自費参加	参加回数	自費参加
総計	120	17	120	5	94	4	99	1	74	0
全研修参加平均	13.3	1.9	17.1	0.7	13.4	0.6	16.5	0.166667	12.3	0.0



リモートでの研修が多い中で、令和7年度はかなり集合研修も増えてきました。集合研修に参加した方からは「気分転換になった」「他施設の方の意見を聞き参考になった」「場所を変えて研修することでより研修内容が頭に入った」との感想が聞かれました。

外部研修を受け、研修を受けた方からの伝達講習をすることもできました。令和8年度も引き続き伝達する場を設け、より多くのことを学べるよう努めます。

4) 研修に関するフィードバック結果

①苑内の研修内容についての感想

令和7年度も家族会主催による「安らかな旅立ちを考える」看取りの研修会や、消防を招いての「AEDの操作方法」を実施することができました。「安らかな旅立ちを考える」看取りの研修会では、参加された家族より「素心苑で最期を迎えることは何もしないことだと思っていた」「施設での看取りに対する考えが変わった」と前向きな意見が多く寄せられました。また令和7年度は9名の方が旅立たれ、入居者が入れ替わりました。家族会主催の「安らかな旅立ちを考える」研修会に参加されたことがない家族も多くいらっしゃるため、令和8年度も実施に向けて進めていきたいと思えます。

②今年度の研究発表をしてみてもいかがでしたか？

研究発表を経験している生活支援員が多くなり、令和7年度も抵抗感なく実施することができました。ユニット内では「〇〇してみようか」と自然に入居者に関わる会話が多くなり、課題に対して取り組めるようになっていきます。以前はユニットリーダーが中心となり取り組みを進めてきましたが、ユニットリーダーはサポート役に回り、支援員が中心となり取り組み・データ分析・資料作成・発表まで行いました。支援員が中心になることで一人一人の役割が明確になり、意識の向上に繋がりました。

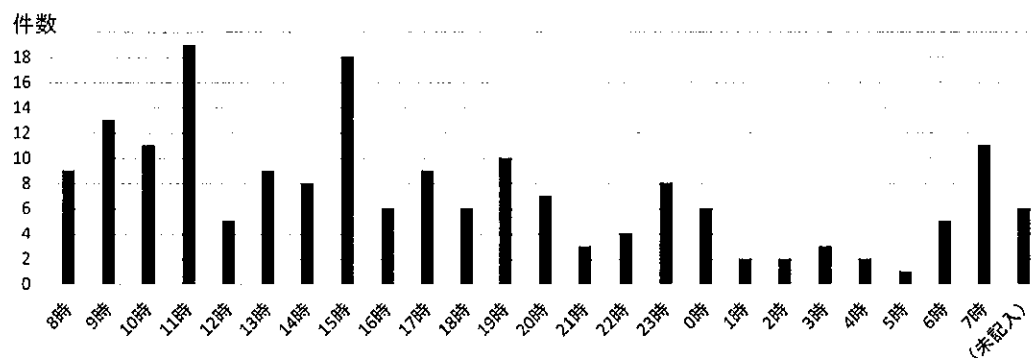
③令和8年度に向けての意気込みは

令和7年度は「普通の暮らしを伝え、素心苑のユニットケアを理解し、素心苑のユニットケアを一人一人に浸透する」ことを目標に掲げ研修を行ってきました。研修の結果、昨年同様理解はしているが浸透まではされていないと感じます。研修の振り返りでほとんどの方が前回の研修内容を覚えていないのが現状です。研修の進め方や内容を見直し、興味を持って前向きに研修に参加できるよう努めます。

自費研修参加は自己選択と研鑽意欲の向上に繋がります。一方、公費参加は承認欲が高まりますので、個人の希望を重視して計画的に研修参加の機会を増やすように努めていきます。

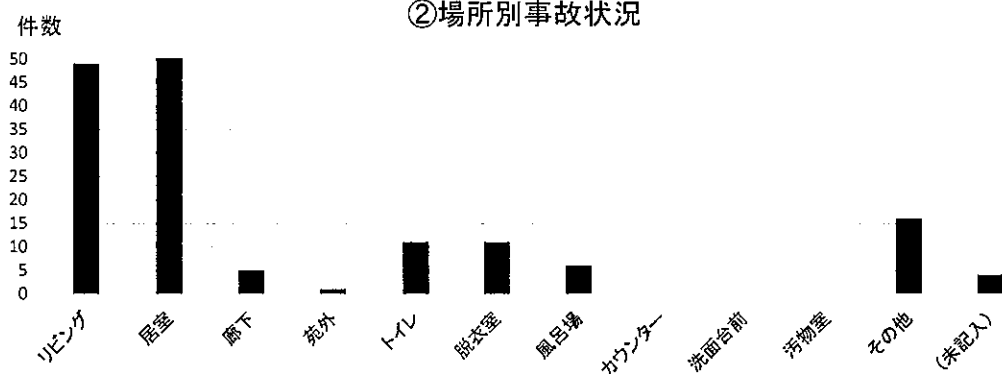
1. 事故報告

①発生時間別事故状況



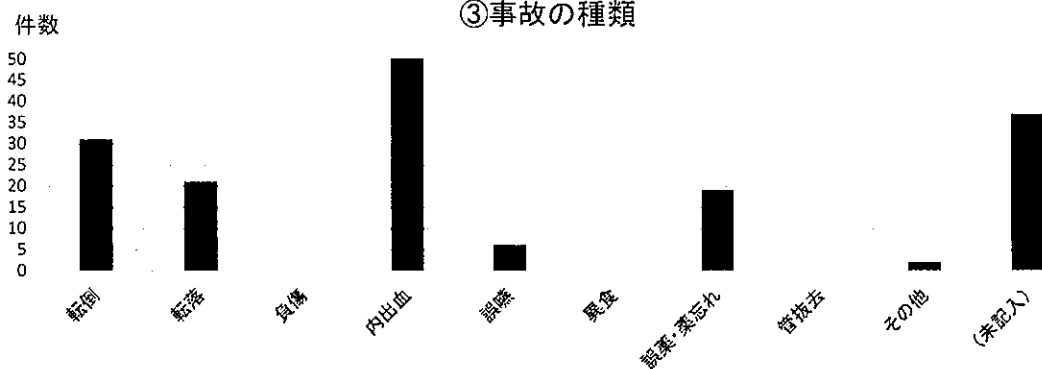
事故発生時間が一番多い時間帯は11時、次に15時という結果になりました。
この時間は入居者が活発に活動される時間であり、また支援する側も忙しい時間帯であるため、事故の発生件数が多くなったと考えられます。

②場所別事故状況



居室で起きた事故が79件と圧倒的に多い結果となりました。(昨年も居室、リビングでの事故が多かった)

③事故の種類



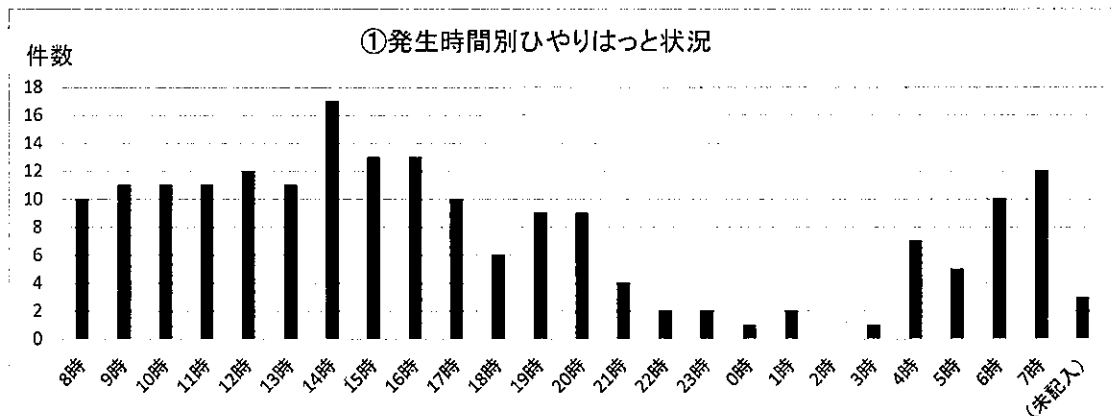
事故の種類で一番多かったのは内出血66件、転倒31件、転落21件という結果でした。未記入が37件もありました。令和8年度は未記入の報告書については再提出を求め、年度末確実な件数を出せるよう

『まとめ』 行政事故報告 0件

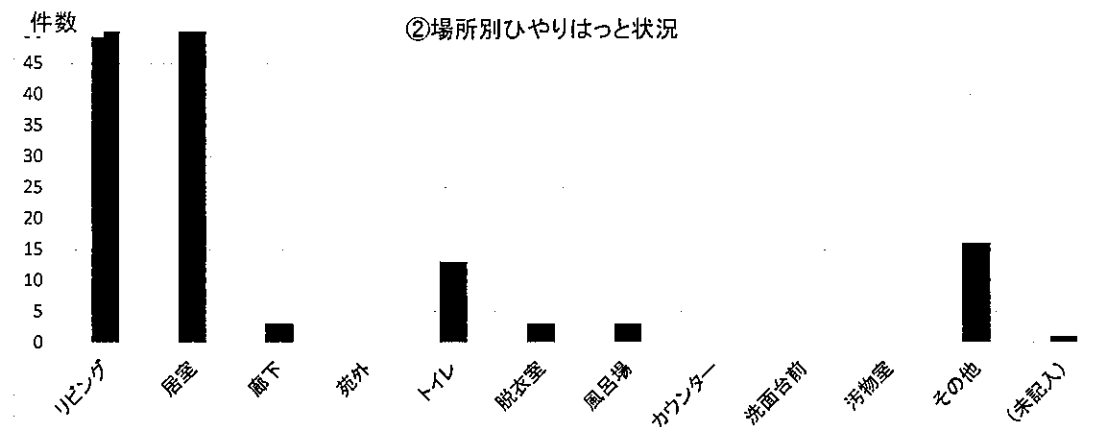
事故報告書件数 182件 (昨年155件)

昨年度より27件事故報告書の提出が増えました。小さな内出血、入居者がぶつけたと思われる内出血も事故として挙げたことにより報告件数が増えたと考えます。令和7年度は骨折事故が2件発生しました。(2件とも保存治療のため五戸町役場へは報告していない)年齢を重ねるに連れ、骨が脆くなってくるのは必然であるが、支援方法が適切であるか等、支援の見直しをすることで大きな事故を防いでいきたいです。

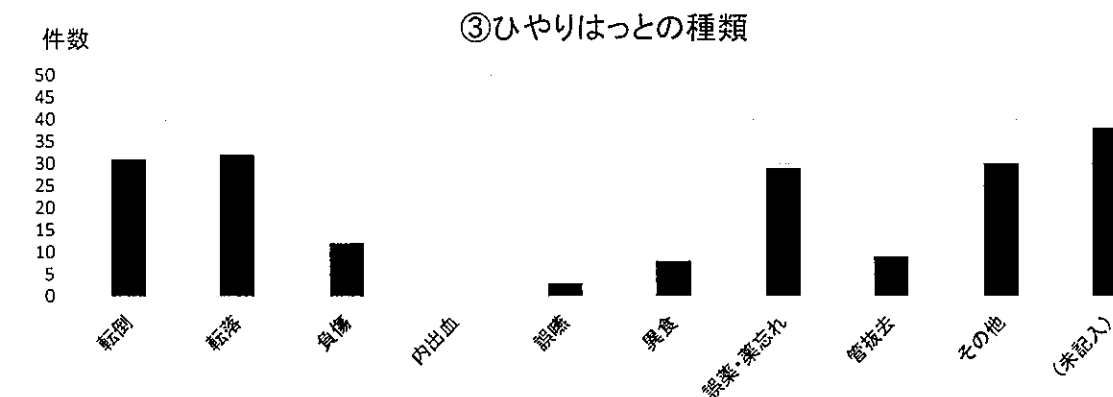
2. ひやりはっと報告



14時の時間帯が多い結果となりました。この時間帯は支援員の人数も多く「気づき」が多かったと考えます。



居室85件と圧倒的に多く、次いでリビングが68件、トイレ13件という結果となりました。



転倒31件、転落32件という結果になりました。誤薬、薬忘れも29件と多かったですが、看護師が薬セットをした後、生活支援員が服薬確認で間違いに気づくことができ、事故に繋がらなかったという事例が多くありました。

『まとめ』

ひやりはっと報告件数192件（昨年118件）

令和7年度は大きな事故を防ぐためにヒヤリハット(気づき)に力を入れました。昨年度よりヒヤリハット報告書が74件増え、初めて事故報告書の件数を上回る結果となりました。事故報告に対してヒヤリハットの報告件数がまだ少ないこと、委員会でヒヤリハットについて毎月取り上げないと意識が低下してしまうことが今の課題です。事故対策委員会が中心となり、引き続きヒヤリハット(気づき)に力を入れていきます。

オレンジ委員会活動報告 素心苑

月	テーマ	内 容	参加人数
6 月	認知症、身体拘束、 高齢者虐待について	・認知症の症状や、認知症当事者の言葉から見える認知症の人の気持ちについて伝えました。 ・演習では認知症の人の立場に立ってケアを振り返りました。	23 名
12 月	認知症、身体拘束、 高齢者虐待について	・身体拘束の11項目についておさらいし、不適切ケアについて自分自身や周りに対し関心を持つことの大切さを伝えました。 ・ニュースになった虐待の事例についてグループワークで背景や改善策について話し合いました。	23 名
3 月	高齢者虐待について	・虐待の芽チェックリストを実施し、その結果を踏まえた勉強会を行いました。実際に素心苑で起きている事例について、背景や改善策をグループワークで話し合いました。	17 名

◆月 1 回、委員会を開催し各ユニットの認知症、身体拘束、虐待についての状況報告を行いました。

【真の家】

●認知症について

- ・夕方に「頭が痛い」「助けてちょうだい」と話される入居者に対し、食事の工夫や排便等の体調面や、散歩やおかずの盛り付け等の活動の面、支援員と一緒に過ごす等さまざまな面から取り組みました。支援員の気持ちの面に対してもサポートし合いました。徐々に「助けて」の言葉が減り、食事を自分で召し上がる事が出来ました。
- ・口数が減り、その人らしさがなくなってきた入居者に対し、排泄の見直しをし、好きだった土いじりを一緒にしたり、一緒に座る時間を意識して作ることを決めたのでこれから取り組んでいきます。

●身体拘束・虐待・不適切ケアについて

- ・身体拘束として「座ってて下さい」という声掛けがありました。立ちあがる理由を考えてから声を掛けることや、座ってて下さいに代わる言葉を考えて声を掛ける等を取り組み、そのような声掛けは見られなくなりました。
- ・虐待につながる行為はありませんでした。不適切ケアへの意識づけのため毎月アンケートを取り、支援員それぞれがケアを振り返り、改善してきました。入居者に対し表情に出してしまったり、嫌な感情になった事等振り返る事が出来ました。

【善の家】

●認知症について

- ・不安から言葉がきつくなったり、支援員に手をあげる事があった利用者に対し、静かな環境で話を聞いたり、バリデーションを用いながらさりげなくボディータッチをしたりして関わりました。本人に合った環境を探り、支援員との関係性づくりに取り組みました。
- ・同じ話をする事で他の利用者と関係性が悪くなってしまっていた利用者に対し、リビングの環境を整え、顔見知りになるところからサポートすることで両者が穏やかに過ごすことが出来ました。

●身体拘束・虐待・不適切ケアについて

- ・身体拘束は1件、便を弄ることがあり、夜間のみつなぎを着用しました。ユニットに慣れる事が出来るようリビングやお部屋の環境を整え、支援員との関係性づくりに取り組みました。
- ・食事支援について、本人の意向と家族の意向に違いがあり、クレームに繋がったケースでは、本人と家族それぞれとのコミュニケーションを深め、意向を再確認しました。
- ・利用者の名前をちゃんづけで呼んだり、「お父さん」と呼ぶことが見られたことに対し、支援員同士声を掛け合っていく事や人生の先輩に対する言葉遣いについて呼びかけました。

【美の家】

●認知症について

- ・バルーンカテーテルの自己抜去が複数回あり、不安が強い入居者に対し、本人が決められるような声掛けや排便サポート、好きな料理でコミュニケーションを取り、生活リズムを整える為に日中のくつろぐ場所等を統一しました。くつろぐ場所を統一すると生活リズムが整ってききましたが、不安になる時はあります。これからもさまざまな状況を共有し、対応を検討していきます。
- ・お話が止まらなくなり支援できない事や、夜間眠れない時がある入居者に対し、お話している時は困っている時なので、困らないように支援するよう取り組みました。動作を1個1個伝えたり、食事の仕方に困らないよう伝えたりしました。

●身体拘束・虐待・不適切ケアについて

- ・虐待につながる行為はありませんでした。不適切な声掛けや対応に迷う状況についてアンケートを取り、対応に迷う状況については話し合い対応を統一しました。不適切な声掛けについては各自振り返り改善できましたが、不適切ケアに気付いていないこともあるので、次年度は委員からの働きかけをもっとしていきたいです。

【聖の家】

●認知症について

- ・特定の支援員だけに頼み事をしたり、パット交換を嫌がることのある入居者に対し、協力ユニットの支援員にもパット交換の方法を見てもらい支援方法の統一をしました。お部屋で過ごすことが多いので、お昼は毎日リビングに起きませんかと声を掛けたり、お部屋に行ってコミュニケーションを取りました。
- ・夕方になると「いやや」と話され支援員に何かを伝えたい様子がある入居者に対し、ベッドから起きるタイミングを変えたり、排泄支援の見直しをし本人のペースに合わせることを意識しました。

●身体拘束・虐待・不適切ケアについて

- ・身体拘束は2件、胃瘻、経鼻経管栄養の入居者がミトンを着用しています。どちらの入居者も毎日どこかの時間でミトンを外して過ごせるよう取り組みました。一人は体調の変化が見られ、リビングに起きられない日はお部屋で腹帯をしてミトンを外して過ごしました。一人は午後にリビングに案内してマスクをつけてミトンを外して過ごしました。
- ・虐待につながる行為はありませんでした。不適切ケアとして、耳が遠い入居者に伝えようとして大きな声で口調まで強くなっていることがあり、怒っているように見えるのでゆっくりと話すことを意識するよう伝えました。忙しくなると口調が強くなっていくので、繰り返し伝えました。また、不適切ケアについてアンケートを行い、ユニットで取り組むことを決め、それに対し評価しました。

◆まとめ

令和7年度のオレンジ委員会のスローガンは「笑顔でともに暮らす～ひとりひとりの気持ちに寄り添おう～」

重点目標は

① 入居者一人一人に合わせた認知症ケア

- ・各ユニット PDCA サイクルで取り組み、解決が難しい事例は委員会で話し合い解決に向けて取り組むことが出来ました。
- ・勉強会の内容はユニットでの課題を取り上げ、認知症について学んだり、ケアの振り返りになりました。勉強会后、支援員ひとりひとりの理解や意識に変化があったのかがわからなかったなので、自己評価を共有するなど、今後の課題にしていきます。

② 不適切ケアについて意識を高め、身体拘束や虐待につながらないようにする

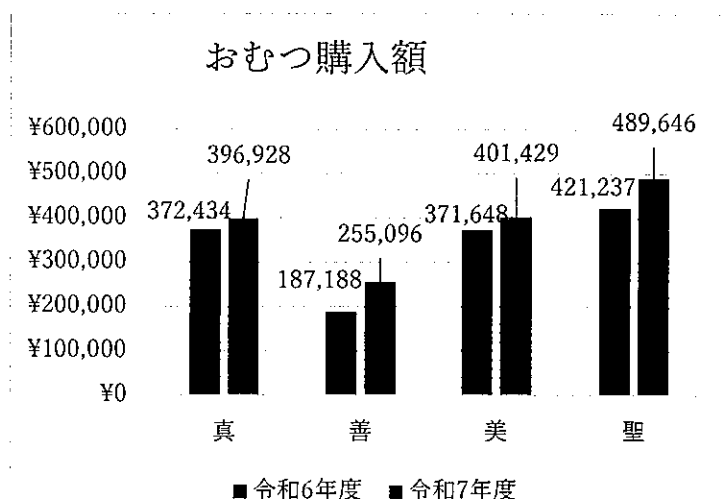
- ・不適切ケアへの意識づけを目的とした 10 分間の勉強会を委員会の時間で行いました。
5 月「課題に気付く」 9 月「不適切な声掛け」 12 月「効果的な話し合い」
ミニ勉強会の内容はユニットで活かすことができ、支援員の気付きを促したり、ユニットの取り組みにも活かす事が出来たので次年度も行っていきたいと思います。
- ・「虐待の芽チェックリスト」を 12 月に実施しました。支援員が感じている事、ユニット内で直さなければならない事などたくさんの意見が出てきました。「虐待の芽チェックリスト」は不適切ケアの気付きになると思ったので次年度も定期的に実施していきます。
- ・多職種の気付きを委員会で話し合ったり、委員会の内容は委員を通じてユニットに伝える事が出来ました。

身体拘束件数は 3 件(年間)、経管栄養者のミトン装着者、便弄りがある方のつなぎ着用でした。指針に沿って対応しました。

1. 排泄について

1) おむつ購入総額の一覧表

	令和 6 年度	令和 7 年度	増減
真	372,434	396,928	24,494
善	187,188	255,096	67,908
美	371,648	401,429	29,781
聖	421,237	489,646	68,409
全体	1,352,507	1,543,099	190,592



2) 各ユニットの取り組み

【真の家】 平均介護度：4.1

入居者 9 名

- ・排泄リズムが合わない方やケアプラン更新時は必ず排泄データーの見直しを行い、排泄リズムに合わせて支援しました。
- ・トイレに行きたいサインを見逃さずさりげなく声を掛けて案内するとか可能な範囲で「トイレで排泄」に心掛けてお腹がスッキリで笑顔が多くみられました。
- ・夜間は「排泄タイミングでパットを替える」事で小さいパットに変更できました。
- ・その方にあった飲み物や食べ物を見つけ出して提供し、自然排便に繋がった方もいます。
- ・病気や薬の副作用により、うまく自然排便に繋がらない方もいます。他職種と情報共有し内容を検討し、くすりに頼らないように自然排便に繋げることが今後も課題です。

【善の家（ショートステイ）】

- ・トイレが自立されている利用者さんの最終排便が確認出来ず、入居される方が数名いらっしゃったが、利用中に確認出来る時と出来ない時がありました。トイレが自立している利用者さんの排便確認は、今後もユニットで確認出来るように取り組みます。
- ・自宅と同じような対応をしてほしいとの要望あり同じ対応をしました。
- ・自然排便では、ごぼう茶にオリゴ糖・牛乳・豆乳・白湯・オリーブオイルなどを取り入れました。取り組んで短い期間のものもあるので、すぐに結果へはつながっていないが、継続して取り組んでいき、便秘改善へとつなげていきたいです。また、苑での取り組みも家族さんへお伝えし、自宅でも取り組めていけるように情報共有していきます。

【美の家】 平均介護度：4.4

入居者 10名 内経管栄養者 1名

- ・入居者に意思確認しながらなるべくパットに排尿する事がないようトイレ案内を心掛けています。
- ・自然排便への取り組みは、甘酒・オリゴ糖・オリーブオイル・ヨーグルト・牛乳を使い、きなこラテ・ココアラテを飲んでいます。
- ・季節に合わせた旬の食材を利用して作り味見をして頂たり一緒に作り、食べる意欲を引き出し排便につなげています。
- ・本人が自力で立ち上がる事ができなくても、本人がトイレで用を済ませたい希望があればトイレに案内してトイレでスッキリを心がけています。
- ・入居者の排泄状況をこまめに共有し良い排泄サポートが出来ています。
- ・今後も入居者に合わせた排泄支援をしていきます。

【聖の家】 平均介護度 4.5

入居者 10名 内経管栄養者 2名

- ・自然排便の取り組みでは、個々にあったものを見つけることが出来、朝食前の牛乳やきなこラテ・オリゴ糖・お腹マッサージ・水分量に気を付ける。ごぼう茶・豆乳を試してみる等して、自然排便の変化が見えてきました。
- ・入居者本人に希望でトイレ案内をしており、トイレでスッキリ排便も出ることが出来、本人の自信にも繋がっています。
- ・尿測、排泄データー表の重要性、自然排便の取り組みについて、ユニット内で共有・話し合い改善を深めていきたいと思っています。

《まとめ》

- ・排泄のタイミングが合わない方や排泄データーやパットの見直しをして、小さいパットに変更することが出来ました。
- ・排泄に関する研修を受け、勉強会を開催することで排泄に関する知識を得ることが出来ました。
- ・自然排便の取り組みでは個々にあった取り組みを行い自然排便に繋がった方もいるが、病気や薬の副作用でうまくいかない方については、今後の課題です。

2. 食事について

1) 各ユニットの取り組み

【真の家】 入居者 9 名 平均介護度 4.1

- ・ 食事時はテレビを消して会話を楽しみ、ゆっくりと召し上がるようにしました。
- ・ おかずの盛り付けを行うとか、昼食時やお茶の時間は職員と一緒にくつろぎ、また、ご家族さんと一緒に食事をする等、様々な工夫で、食事時間の笑顔や会話がより弾むようになりました。
- ・ 入居者の好みの食を取り入れるとか食材アレンジや選択メニュー、その他に旬の野菜で具沢山の汁物などの工夫を凝らしました。
- ・ 体調の変化により食が進まない方へは、他職種と情報共有して食事形態を見直し、ひとり一人に合わせた食事を提供する事が出来ました。
- ・ 視覚や臭覚（見た目や匂い）を大切にした食事を継続します。

【善の家（ショートステイ）】

- ・ 一緒に食事準備をする（盛り付けを手伝う）とか会話や音楽を楽しみながら食事ができる環境づくりを行いました。
- ・ 食事がすすまない利用者さんには、家族に了承を得てから栄養士・看護師に相談し、食事形態の見直しをして、その方にあった食事を提供することが出来ました。
- ・ 旬の食べものや、利用者さんのリクエスト食、外食などで場所や雰囲気を変えるなど、今後も継続していきたいです。

【美の家】 入居者 10 名 平均介護度 4.4

- ・ 魚が苦手な方には、ご飯にまぜ込むことで召し上がるようになりました。
- ・ 残しそうなおかずには味付けや盛り付けなど、ひと工夫を意識してお出ししています。
- ・ 食事の時にはテレビを消して召し上がっています。
- ・ 職員と一緒に座って食べる等、心地よい食事時間を作るようにしています。
- ・ 食事制限（療養食など）がある方等へは、量とか器・提供時間・周囲とのバランスを考慮して周囲との差別感のない食事摂取に努めています。
- ・ 誤嚥傾向のある方へは大きさや食材によって切れ込みを入れる等の工夫を共有しています。
- ・ 旬の食材・好みの味を大切にお出ししています。
- ・ これからも美味しく楽しく食事ができるようにしていきます。

【聖の家】 入居者 10 名 平均介護度 4.5

- ・ 誤嚥傾向の方の多くは食事環境が大きく影響することから食事場所や姿勢、同席者との関係性音など様々な検討を重ねて、ひとり一人に合った対応に心掛けています。
- また、・ 汁物や甘い物、旬の食材を生かして季節感や懐かしい味を楽しんでいただいています。また、お楽しみメニューや喫茶、軽食喫茶でいつもと違う雰囲気の中で「一緒に食べる」ことを待ち遠しく感じられる工夫を凝らしています。

《まとめ》

- ①旬のものと入居者・利用者のリクエストを取り入れ、また見た目の工夫も美味しく楽しく食べることが出来ました。
- ②誤嚥傾向のある方への対応で姿勢や食事環境に着目し取り組んだことで、「口から食べる」という好結果につながったケースが多かった。
- ③体調の変化の際は早期に多職種間で専門性・知恵を出し合い早期対応を行いました。
- ④食事は「美味しく楽しく」を基本に、個別の嗜好やご家族の差し入れ環境作りを継続します。
- ⑤定例の「喫茶」開催を継続できました。最低でも月2回のお楽しみ場所で、
「いつもと違う環境でいつもと違う味・いつもと違う人と一緒に食べる」

笑顔も多く楽しみながら召し上がっていました。利用者や入居者の方は外出の気分をあげることができたと思います。また、家族さんや面会に来られていた知人の方にも一緒に喫茶でくつろぎ、喜ばれていました。次年度も喫茶を継続して「楽しみっこ場所」として継続します。

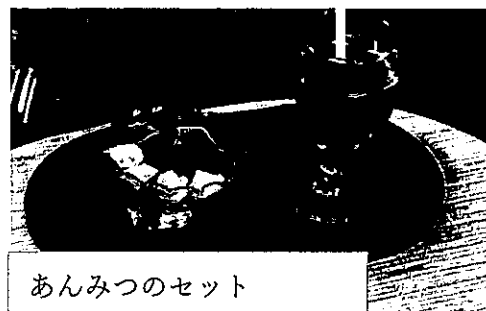
2) その他

①「喫茶」開店

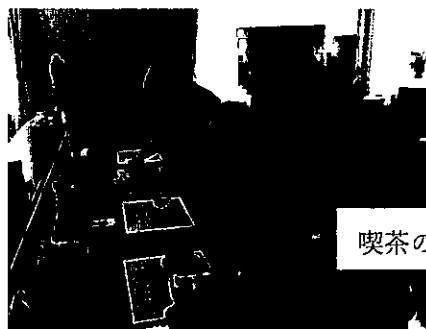
- ・喫茶月2回開催・平均参加者1回/23名
- ・メニューは、季節を感じるスイーツや馴染みのあるスイーツを提供した。また、見た目でも楽しめる工夫を凝らし沢山の笑顔が見られる場所となった。時にはデザートを好みで選択できるような工夫で笑顔が増える場所となっている。
- ・いつもと違った環境で会話がはずみ、生き生きと楽しく、支援員も一緒にくつろぎました。また、家族さんや知人とのくつろぐ空間作りも好評でした。様々な工夫を凝らして来年度も継続します。



豆しとぎのセット



あんみつのセット



喫茶の様子



でるでる体操の様子

②でるでる体操

- ・月1回実施

参加者平均10名・自律神経高揚で腸運動（蠕動運動）効果目的心地よくゆっくりと体を動かします。

馴染みの曲に合わせて口ずさみ・体を動かし、声を出して一緒に笑う
今後は「口の体操」も導入します。

4. 口腔ケアについて

各ユニットの取り組み

【真の家】

- ・舌の汚れのある方が数名いたが口腔ジェルでこまめに保湿することで、皆きれいになりました。
- ・食べ物を詰まったことがある方や舌の動きの低下のある方には、唾液腺マッサージや肩周辺マッサージ・口腔内マッサージを行っています。
- ・悩みことは歯科医師や歯科衛生士からアドバイスを頂き、取り組みました。
- ・美味しく食べて頂くために口の中をきれいにし、また、会話を多くしていくことを継続していきます。

【善の家】

- ・食事の後は、口の中を清潔にするという意識づけができました。
- ・自分で歯みが出来る方でもきちんと磨けているか確認し、時々支援して口腔内の清潔を保ていたので、今後も継続していきます。

【美の家】

- ・口を開けてくれなかった入居者がいましたが関係性を作りに努め、歯磨きやスポンジで拭き取りをしています。
- ・食事の様子を見て残渣物の観察をして小村歯科にお伝えして入れ歯の調整をお願いしています。
- ・今後も入居者の口腔の不具合に気配りをしていきたいです。

【聖の家】

- ・経管栄養されている方で舌の汚れや乾燥があり、気づいた時に口腔用シートや保湿ジェルや口腔スプレーで保湿を行い、お部屋も乾燥が気になるとの事で、加湿器で保湿をして、口腔内をきれいに保つことが出来ました。
- ・歯の残っている方もいるため痛みやぐらつきがあった時には、歯科往診時に報告し治療してもらい改善出来ました。継続して口腔内の観察していき、変化が見られた時には共有・相談していきます。

《まとめ》

- ・口腔内を清潔にし保湿してきれいに保つことが出来た。
- ・歯科医師や歯科衛生士からアドバイスを頂き、指導のもと全職員が把握して同じ指導が出来るように頑張った。
- ・口から食べる楽しみを大切にしていきたいと思います。

広報・サークル委員会活動報告 素心苑

1, 目 的

入居者に「楽しみを持って頂き、快適に安心して素心苑で暮らし続けるため」の活動を継続し「地域の一面である」である素心苑の「取り組みを知って頂く」活動を行う。

2, 目 標

② 四季を目で楽しみ、口で味わい、耳で語り合い肌で感じる。

②五戸町・近隣の地域の行事・イベントに参加

③みんなの笑い声を届ける。

3, 活 動

① 四季を目で楽しみ、口で味わい、耳で語り合い肌で感じる。

【取 組 み】普段の会話から希望のメニューや季節折々の食材を使った料理をお出しし会話を広げる。
第2水曜日はサークル活動の日とし身体を動かしたくさん笑う。

【結 果】令和7年度は軽食喫茶の定着ができた。次回のメニューを入居者からお聴きし、喜んで頂きました。環境の違いでユニットにいる時よりもたくさん召し上がる様子や他のユニットの方との交流もできました。

② 五戸町・近隣の地域の行事・イベントに参加

【取 組 み】町の行事を調べイベントにどんどん出かける。委員会のメンバーは、五戸町の HP の情報をキャッチし、入居者へお伝えする。家族への働きかけを続け、家族も一緒に楽しむ。

【結 果】花火大会や五戸公民館での町内の活動に参加でき、町内の方々からも声をかけて頂けるようになりました。家族参加に関しては少なかったが、地域へ出かけている様子はお伝え出来ました。

③ みんなの笑い声を届ける。

【取 組 み】毎月の SNS での発信。遠くの家族でも元気な姿を見られるようにする。委員会のメンバーが揃う軽食喫茶の日やサークル活動の日を発信日にする。定期的な季刊誌の発行をする。

【結 果】できるだけ毎月の SNS の発信を心がけましたが、なかなか毎月はできませんでした。引き続き全メンバーが発信できるようにしていきます。季刊誌の発行に関しても、写真を撮りためる事を意識して継続していきます。

【ま と め】

令和7年度は、軽食喫茶が定着し、世界のお料理シリーズや昔食べた五戸町のお料理シリーズなど、普段の会話の中から希望を聞き取りメニューに取り入れることができ、大変ながらも入居者からの好評を得ることができました。SNS の発信に関しても毎月の掲載は難しかったですが、家族の方や研修に来られる方から見ましたという反応があり、見てくださっている方が増えているようです。これからの素心苑の暮らしの様子を発信して、ユニットケアの取り組みを広げていきたいと思えます。

感染・褥瘡対策委員会活動報告 素心苑

〈感染対策委員会〉

1. 目標 「再生～つながる素心縁～」
2. 重点目標 「感染予防や蔓延対策が実施できる」「入居環境を清潔に保つ」
3. 活動報告

1) 感染の予防と対策の研修実施 全体勉強会

テーマ	内容	実施月	参加者	講師
食中毒	家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント	7 月	12 名	管理栄養士
感染対策について	ノロウイルスについて 発生時のシミュレーションとガウンテクニックと吐物処理方法	11 月	14 名	感染対策委員会

2) 委員会活動内容

●感染予防と感染状況の把握と報告

- ・日々の手指衛生・うがい・換気・清掃など衛生環境を整える。感染物品管理や補充
- ・入居者の食事前後や排泄後の手洗い手拭きの実施
- ・体調不良時は受診や職場へ報告して感染を未然に防ぐ

4. 感染発生状況

ノロウイルス・インフルエンザ・新型コロナの苑内での感染蔓延はありませんでした。

5. まとめ

職員家族の感染症発生はありましたが、職員が感染予防に努めたため苑内への感染はありませんでした。清掃や除菌のため使用していたソリューションウォーターからアイポッシュへ変更。8月に令和7年度青森県感染対策研修会を委員3名が受講し、11月の感染研修に役立てました。

〈褥瘡対策委員会〉

1. 目標 「再生～つながる素心縁～」
2. 重点目標 「皮膚状態を良好に保つ・褥瘡マネジメント計画表の理解と運用」
3. 活動報告

1) 委員会活動内容

- ・皮膚を健康に保ち皮膚観察を行い、持続する発赤や皮膚トラブル時はユニットや多職種共有を図る。
- ・それぞれ入居者に合わせた皮膚ケアを実施と褥瘡マネジメントの理解
- ・委員会で褥瘡予防の研修を6月に2回行い18名の受講がありました。

4. まとめ

持続する発赤と表皮剥離程度の褥瘡発生が3名で、同じ入居者が3回以上の発生がありました。発生しても1～2週間程度で治癒する事例がほとんどでした。褥瘡マネジメント表は相談員から運用の仕方を学習しました。褥瘡予防研修では褥瘡について・ポジショニング・スライディングシートの使い方等を行いました。八戸で行われた外部講師の褥瘡研修にも委員が3名受講しています。

業務改善向上委員会 素心苑

【R7年度年間目標】

1. 【ケアの統一】

- ・ケアプラン、24シート、入浴、排泄データ表を理解、活用しケアを統一する。
(評価):プランやデータ表を理解し、担当支援員が作成できるようになり、定着した。その後の活用に関しては個人差があり、全員が統一するという事には欠けていたので指導方法の見直しをしていきたい。

2. 【時間外勤務の減少】

- ・ケアプランやモニタリングを時間内に行えるよう、チェックリストを活用し技術のレベルを上げていく。
(評価):何が原因で時間外がでてしまうのか検討した結果、技術のレベルではないかと踏まえ、技術チェックリストを自己評価してもらった。委員がさりげなくリストをもとに技術のチェックをし、個人面談時に出来なかった部分を話し合った。その流れを3ヵ月に1回と決めていたが、一度しか出来ず、もっと計画的に実行して成果に繋がられるようにする。

3. 【環境整備】

- ・入居者の暮らしの場が常に安全で清潔で使いやすくあるように整理整頓をする。
(評価):安全には配慮し整頓は行っていたが、細かい掃除や物品の補充など行う人に偏りがあった。人任せにせず次に使う人の事を考えて作業を効率的に行っていく。

【今後の課題】

- ・3ヵ月に1回の委員会開催のほか、日々のケアやプラン作成などの技術のレベルをあげ、時間外の減少、有給休暇の取得に努めたい。
- ・入居者、利用者の安全を確保し、安心して過ごしていただけるように、環境整備を苑全体で取り組んでいく。
- ・職員の体の負担軽減のために勉強会を開き福祉用具の活用などしていく。

突発的なことへの対応で時間外や負担が出ないように、普段から入居者への細かい気づきを大切に、早めの対策、情報共有をしっかりとしていきたい。

活動実地報告（生活相談員） 八戸素心苑

【特養】

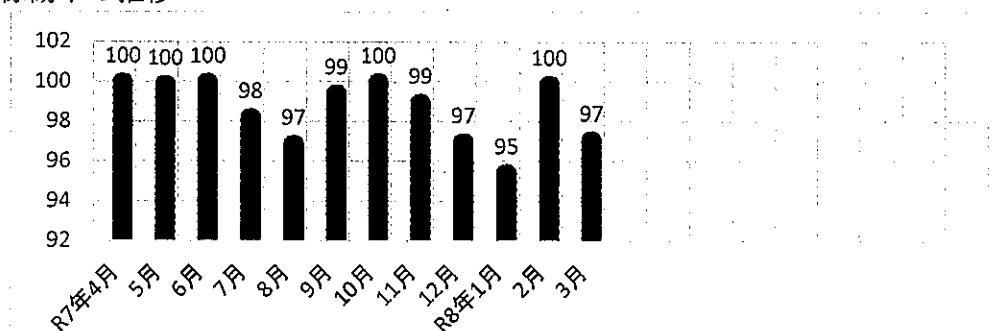
1) 入居の状況（請求実績より）

	入居者数（人）			満床時延べ人数（人）	定員（人）	延人数（人）	稼働率（％）
	男性	女性	合計				
R7年4月	10	20	30.0	870	29	870	100
5月	9	20	29.0	899	29	898	100
6月	9	20	29.0	870	29	870	100
7月	9	20	29.0	899	29	883	98
8月	8	22	30.0	899	29	871	97
9月	8	21	29.0	870	29	865	99
10月	8	21	29.0	899	29	899	100
11月	8	21	29.0	870	29	861	99
12月	8	21	29.0	899	29	872	97
R8年1月	8	21	29.0	899	29	858	95
2月	8	22	30.0	812	29	811	100
3月	8	21	29.0	899	29	873	97
合計	101	250	351.0	10,585	29	9,558	1182.8
平均	8.4	20.8	29.3	882	—	869	98.5

・入居者数は月請求のある人数。

・延人数は、入院・外泊等の人数を差し引いたもので、稼働率は当月に満床であった場合に対するもの。

稼働率の推移



2) 入院の状況

① 入院延数 入院日と退院日は滞在日としている

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	0	0	0	16	26	5	0	10	27	41	0	26	151
対象者数	0	0	0	1	1	1	0	1	1	2	0	1	8
月平均入院日数：12.5 日				月平均入院者数：0.67人									

*入院者の居室をショート有空床利用としている日数は、ショーステイ利用日数に標記している。

年間を通じて誤嚥性肺炎や脱水になられる方が多く入院治療されるケースが目立ちました。一方、施設での看取りは5件でした。年々施設で看取ることへの理解と施設態勢を通じて職員と家族との関係性も深まりました。

3) 入居・退居者の状況

入居者						退居者				
性別	年齢	要介護度	寝たきり度	認知症自立度	入居前	性別	年齢	要介護度	入居期間	退居理由
女	91	介護度5	J1	I	自宅	男	88	介護度5	4ヶ月	看取り
女	91	介護度4	c1	IV	自宅	男	92	介護度5	6ヶ月	病院にて逝去
女	80	介護度3	b1	Ⅱb	自宅	女	93	介護度5	3年4ヶ月	入院加療
女	83	介護度4	b2	IV	有料老人ホーム	女	96	介護度4	1年4ヶ月	看取り
合計					4名	合計				4名

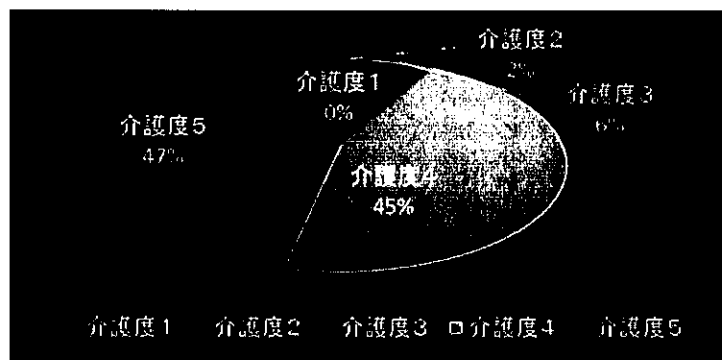
退居者のうち5件は施設で看取りができました。ユニットで家族との信頼関係の構築により、家族・本人の思いに寄り添い見送ることが出来ました。その他の退居理由は長期入院のまま退居され、空床増を招きました。

年間介護度一覧表

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	割合(%)
介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護度2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.58	2.0
介護度3	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.75	6.0
介護度4	14	13	12	13	13	12	12	13	13	14	14	15	13.1	45.2
介護度5	13	13	15	15	14	14	14	13	13	13	13	12	13.5	46.6
平均介護度	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3		

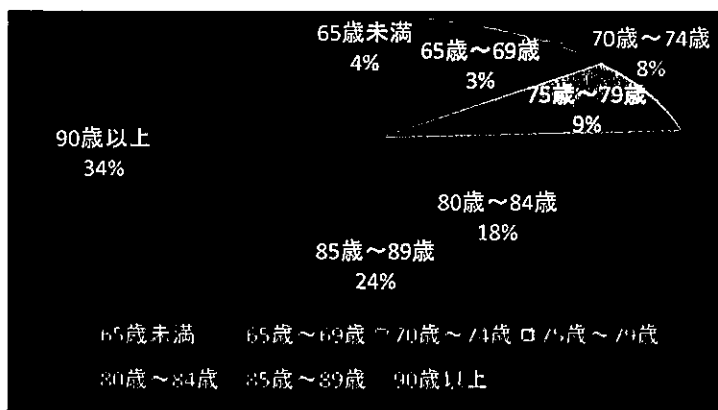
* 介護度一覧表 *



全体的に介護度が高く、介護度の割合が4～5が90%を占めました。引き続き状態変化に伴い区分変更も考慮しながら、ひとり一人の身体状態に正しく評価し、その方の望む支援を保持したいと考えています。

5) 入居者の年齢構成	(単位：人)												平均	割合 (%)
年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
65歳未満	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	3
65歳～69歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	3
70歳～74歳	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2.33	8
75歳～79歳	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2.66	9
80歳～84歳	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	6	5	5.16	18
85歳～89歳	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	8	6.91	24
90歳以上	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9.83	34
平均年齢	84.2	84.2	84.3	84.4	84.1	84.1	84.2	84.3	84.3	84.5	82.4	84.1		

＊年齢の構成＊



80代後半から90代の方が増えてきており健康状態の変化や残存機能能力を見極めて区分変更も考慮し、その方の身体状態に合った介護度を保持したいと考えます。

6) 入居者の移動等状況（年度末現在）

（単位：人）

	一人で歩く	杖・手引き	シルバーカー・歩行器	一般型の車椅子	リクライニング車椅子	合計
7年度末	0	1	0	24	4	29

＊参考情報（年度末）Ⅲ以上26名

・1名は主治医意見書情報提供なし

認知症高齢者の日常生活自立度	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	合計
	0	0	1	1	8	8	9	1	28
障害高齢者の日常生活自立度	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	合計
	0	0	1	4	1	15	3	4	28

7) 入浴支援の状況（年度末現在）

（単位：人）

入浴支援	個浴			大きな個浴 全支援	計
	自立	一部支援	リフト		
真の家	0	1	9	0	10
美の家	0	1	8	0	9
聖の家	0	0	10	0	10
計	0	2	27	0	29

8) トイレの利用状況（年度末現在）

	一人でトイレ	支援でトイレ	居室で支援
7年度末	1人	21人	7人

支援員の「下着にパット」という考えでトイレで排泄することに対する意識が高まりました。個々に適応した排泄用品の選択方法を学習し、個々の排泄パターンの把握や意識の向上に努めました。来年度は個人の状態に合わせ自然排便にも努めADL向上を目指します。

・ R7. 4. ～R7. 8	将棋・花見、体操クラブ、第1・第3水曜日：喫茶店、第1回居酒屋（8月）
・ R7. 9～	将棋・お花、体操、お茶クラブ、第1・第3水曜日：喫茶店 家族会主催 敬老会
・ R7. 10～	将棋・体操・お茶・映画クラブ、第1・第3水曜日：喫茶店、第2回居酒屋
・ R7. 11～	体操・お茶・映画クラブ、第1・第3水曜日：喫茶店
・ R7. 12～R8. 3	体操・お茶・映画・カラオケクラブ。、第1・第3水曜日：喫茶店、第3回居酒屋
・ R7. 2. 19	上福田えんぶり組によるえんぶり披露
・ R8. 3	家族会主催 看取りの研修会

・各ユニットにて調理、ドライブ開催

《その他の交流や外出》

- ・お歯科医院勉強会・理学療法士により勉強会・看護師・介護士養成校依頼実習生施設見学・家族会監査
- 《運営推進会議》
- ・年6回偶数月に開催。入居者の処遇や地域交流などに関する情報共有

《入居判定会議》

- ・年6回開催。入居希望者に関する情報共有や入居順の判定

《入居者の処遇等》

- ・年1回、胸部撮影 採血
- ・インフルエンザ予防接種、コロナワクチン接種

《苦情受付》

・令和7年度の相談3件（利用終了の1時間前の入浴・言葉遣い・虐待）うち第三者委員依頼対象者1件（虐待）対応策として、入浴・言葉遣いの件については直接の謝罪・玄関に回答票の掲示し対応。虐待の件については市役所へ第一報の報告→調査→改善策を立てて施設内研修と虐待の芽チェックリストを定期的に行う

10) 介護給付費の加算算定の推移

《特養》

	内 容	加算開始
1	看護体制加算ⅠⅠ	平成31年4月～
2	看護体制加算ⅡⅠ	平成31年4月～
3	処遇改善加算Ⅰ	平成31年4月～
4	夜勤職員配置加算Ⅰ	平成31年4月～
5	日常生活継続支援加算2	平成31年4月～令和7年11月
6	サービス提供体制強化加算	令和7年12月～
7	口腔衛生管理体制加算	平成31年4月～
8	口腔衛生管理加算	平成31年4月～
9	褥瘡マネジメント加算	令和元年8月～
10	栄養マネジメント加算	令和元年8月～
11	特定処遇改善加算Ⅰ	令和1年10月～
12	排せつ支援加算	令和2年1月～
13	科学的介護推進加算Ⅱ	令和4年4月～
14	ベースアップ支援加算	令和4年10月～令和6年5月末まで

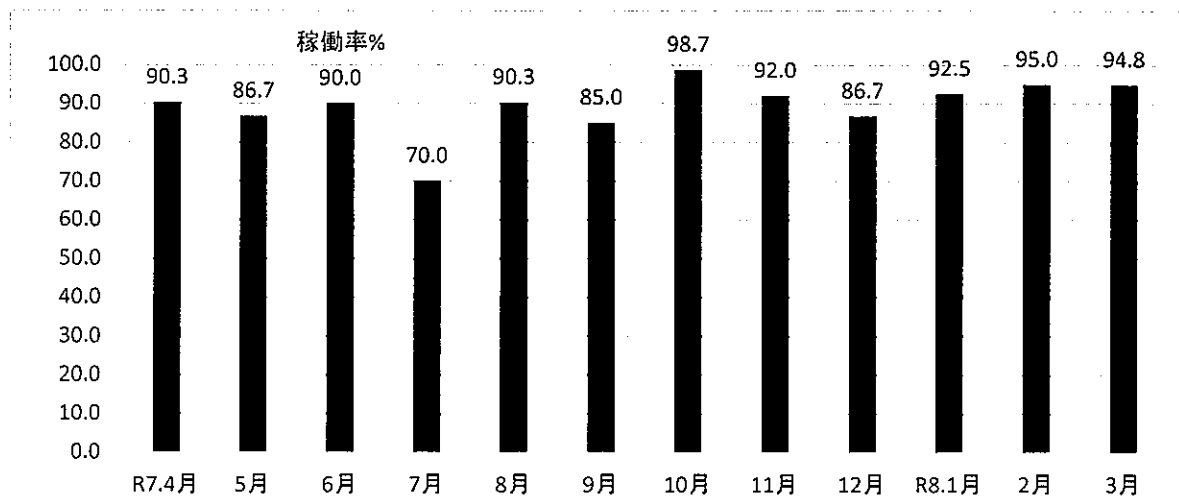
《ショートステイ》

	内 容	加算開始
1	送迎加算	令和元年10月～
2	夜勤職員配置加算	令和元年10月～
3	サービス提供加算ⅠⅠ	令和2年1月～
4	処遇改善加算Ⅰ	令和元年10月～
5	特定処遇改善加算Ⅰ	令和3年4月～
6	ベースアップ支援加算	令和4年10月～令和6年5月末まで

【ショートステイ】

1) 利用状況（ショート10床＋特養の空床含む）

	入居者数（人）			満床時延べ人数（人）	空床利用可能数（延べ利用者数）	空床利用可（延べ利用者数）	延利用者数（人）	稼働率（%）
	男性	女性	合計					
R7.4月	10	18	28	300	0	0	271	90.3
5月	11	21	32	310	0	0	269	86.7
6月	10	22	32	300	0	0	270	90.0
7月	7	20	27	310	0	0	215	70.0
8月	14	21	35	310	0	0	278	90.3
9月	11	18	29	300	0	0	255	85.0
10月	11	18	29	310	0	0	255	98.7
11月	10	21	31	300	0	0	276	92.0
12月	11	21	32	310	0	0	269	86.7
R8.1月	10	18	28	310	0	0	286	92.5
2月	12	16	28	280	0	0	266	95.0
3月	10	20	30	310	0	0	294	94.8
合計	127	234	361	3650	0	0	3204	1072.0
平均	10.6	19.5	30.1	304.2	0.0	0.0	267.0	89.3



2) 利用者の介護度

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月	2月	3月	平均	割合%
介護度1	4	3	5	4	10	7	7	4	5	5	4	6	5.3	18
介護度2	8	7	6	5	6	5	5	5	9	5	6	7	6.2	20
介護度3	7	8	10	7	12	8	8	10	9	8	9	8	8.7	29
介護度4	7	12	10	10	6	7	7	10	7	8	7	7	8.2	27
介護度5	2	2	1	1	1	2	2	2	3	2	2	2	1.8	6
平均介護度	3.12	2.44	2.76	3.19	3.04	3.07	3.38	3.27	3.03	3.12	3.01	2.58	3.0	
利用人数	28	32	32	27	35	29	29	31	33	28	28	30	30.2	

12月・R5.1月 介護度4に1名プラス

3) 利用者の要支援度

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月	2月	3月	平均	割合%
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
要支援2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0.417	1
平均要介護度	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	
利用人数	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0.4	

4) 利用者の介護度別利用状況

(単位：人)

	要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		総計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
4月	0	1	3	1	2	6	2	5	2	5	1	1	10.0	19.0
5月	0	0	3	0	2	5	2	6	3	9	1	1	11.0	21.0
6月	1	0	3	2	2	4	3	7	2	8	0	1	11.0	22.0
7月	0	0	2	2	1	4	1	6	3	7	0	1	7.0	20.0
8月	0	0	7	3	1	5	4	8	2	4	0	1	14.0	21.0
9月	0	0	5	2	2	3	1	7	2	5	1	1	11.0	18.0
10月	0	0	5	2	2	3	1	7	2	5	1	1	11.0	18.0
11月	0	0	3	1	1	4	3	7	2	8	1	1	10.0	21.0
12月	0	0	2	3	3	6	2	6	2	5	2	1	11.0	21.0
R7.1月	0	0	3	2	2	3	2	6	2	6	1	1	10.0	18.0
2月	0	0	3	1	4	2	3	6	1	6	1	1	12.0	16.0
3月	1	0	4	2	4	3	0	8	1	6	1	1	11.0	20.0
合計	0	1	43	21	26	48	24	79	24	74	10	12	129.0	235.0
平均	0.2	0.1	3.6	1.8	2.2	4.0	2.0	6.6	2.0	6.2	0.8	1.0	9.3	19.6

5) 利用者の市町村別利用状況 (延べ人数)

(単位: 人)

	八戸市		おいらせ町		五戸町		新郷村		総計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
人数	26	42	0	0	5	3	1	1	32	46
合計	68		0		8		2		78	

6) 居宅介護支援事業所別の利用者数

(単位: 人)

五戸町		八戸市												
五戸社協	ハピネス五戸	ニチイ八戸	寿楽荘	かいご相談所テラ	えがおみよう	豊仁会	浄信館	居宅ほおずき	居宅まる	しろがね居宅	ケアプランセンターしもなが	ケアプランセンターオードリー	八太郎山の家相談室居宅	ほっとハウス
5	8	1	6	3	1	9	9	4	6	6	2	4	1	1

八戸市														
ビリーブケアプラン八戸中央	医師会居宅	居宅こなかの	居宅まほろば	さくら荘	かつこうの森こなかの	かいごの相談室三八	ケアプランサービスかざみどり	修光園	老健しんごう	ハピネスやうら	ケアプランセンターまゆすい	ニチイ湊高台	生協ケアプランかいごの相談室	八戸市社会福祉事業団
2	1	2	2	1	2	1	4	2	3	2	4	2	4	1

ちょうじゃの森在宅	居宅つなぐ	いこい苑
1	1	1

居宅事業所数	33事業所
利用者人数	102人

年度内緊急時受入加算対象者人数	1名
-----------------	----

八戸市在住の利用者が約9割を占める。市以外の定期利用者や居宅事業所数も増加しています。

《ご入居ご家族様のご利用満足度調査》

【対象者と配布方法】 特養入居者のご家族29名とショートステイ定期利用者家族20名に発送・お渡ししました

【有効回答数】 特養 18 枚 ・ ショート 12 枚 (有効回答率 61 %)

【回収方法】 面会時や郵送、自宅送迎時に回収

【質問内容】

①職員の対応・態度・身だしなみ ②施設内のしつらえ・掃除について ③施設に対しての要望・意見

【結果】回収率61 %でした。①の項目の「良い」「普通」がほとんどでした。感謝の声も多かったが気を付けてほしい意見も書かれていました。

【まとめ】令和7年度は一時的な面会制限もありましたが、ご家族の感染対策の協力もあり通常通り面会等行うことができました。家族会主催の勉強会やえんぶり、敬老会など家族交際の交流があり家族共に交流ができて関係性を築くことができました。今後も率直なご意見を沢山頂き創意工夫で現場に反映させて頂きます。

管理栄養士の活動報告 八戸素心苑

1. 普段の食事

- ・調理済食材の注文場所は同じだが、7月より、出荷場所が青森市からいわき市の支店に変更になりました。今後、緊急時の対応について再度検討が必要と思います。汁ものや補食分の食材は、町内の商店やスーパー、隣町にある業者へ注文をし、発注業務を円滑に進めることができました。
- ・日々のおかずの盛り付けや調理を入居者、利用者と一緒に行いました。また、食べる場所を変えて食事をする、汁物や行事食、主食等を選択ができる日を献立に設けることで、日々の食に変化をつけ、おいしく食事ができるように工夫しました。

2. 給与栄養量表

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	Ca	鉄	VA	VB1	VB2	ビタミンC	食物繊維	食塩相当量
平均	1333	47.3	30.5	211.3	438	5.6	393	0.76	0.47	59	9.1	7.9
目標量	1584	53.0	35.7	262.7	620	6.3	701	1.01	1.11	90	17.9	8.0
過不足	84%	89%	86%	80%	71%	88%	56%	76%	42%	65%	51%	99%

- ・調理済食材の使用のため、ミネラルやビタミン類の値の算出が難しい部分もあるが、不足する栄養素に関しては、嗜好調査の内容も含めて、乳製品や果物、野菜ジュース類、完調品の主菜を活用し補っています。また、栄養状態については、個々の必要エネルギーを算出し、それに合わせた食事量を提供し、むくみの有無や排泄状況、体重変化等も合わせて観察し、評価しています。

3. 栄養マネジメントの実施

- ・多職種で連携し、栄養計画書を作成、実施、評価をして入居者個々の栄養管理に努めました。
- ・特にサテライト施設であるため、多職種との連携について常に考え行動しました。課題となっていた情報共有について、管理栄養士の出勤日の固定をすることで、共有する機会が増え、また、入居者の食事の様子等の観察する時間も増えたことで、改善傾向です。
- ・情報共有は、リモートを活用し、ユニット会議や委員会、カンファレンス等に参加し、効率よく実施しました。

4. 加算算定

①療養食加算（1食6単位）

腎臓病食塩分 6.0g 未満	1名			合計	1名
----------------	----	--	--	----	----

- ・昨年度の療養食提供人数が1名で変更はありません。
- ・腎臓病食を提供している入居者には、みそ汁の量を調整し対応しました。また、食べる楽しみも継続しつつ体重やむくみの観察をし、心身ともに無理のないよう工夫しました。

5. 検食

- ・検食は、施設長、生活支援員、看護師、相談員で実施しました。
- ・おいしいという意見が多い反面、味付けが薄い、おかずが硬いという意見もありました。別な食材と調理する等の調理方法の見直しや食器の工夫等をさわやか委員会内で周知し、改善に努めました。

6. 嗜好調査、残食調査

・9月と2月の年に2回実施しました。結果として、野菜は好きだが、身体状況の変化に伴い硬くて食べることが難しいという人が多かったです。食べたいが、難しくなっているという気持ちを大事にし、切り方や柔らかくする工夫をし提供することに努めました。

・また、調理済食材を使用しているため提供人数分よりも多く納品されていることに関しては、残食量から実際の1人分の喫食量の平均を出し、予定の提供量と比較し、残食率を算出しました。

7. 食数及び食材費（年間）

食数		常食	ムース食	代替食	メイバランス	処方	合計
特養	今年度	25302	425	2996	3447	0	32170
	前年度	25838	42	2271	3297	0	31448
ショートステイ	今年度	8562	0	35	0	4	8601
	前年度	8497	34	162	0	38	8731

・食数について、特養は増加し、ショートステイは減少しています。

・特養では食種をみると、嚥下調整が必要なムース食やゼリー食が増加しています。加齢に伴う機能低下が要因となり、嚥下調整が必要な人が増加していることがわかります。今年度も多くの方を看取りました。その際、食べたいものを食べることができる形状にして、最期まで提供しました。本人、家族の意向の可能な限り沿うことができました。

食材費		経口		経管		合計	
		特養	ショート	特養	ショート	特養	ショート
合計	今年度	9,000,571	2,522,817	848,053	0	9,848,624	2,522,817
	前年度	8,679,977	2,708,217	933,741	0	9,613,718	2,708,217
前年度との差		320,594	-185,400	-85,688	0	234,906	-185,400

・食材費について、特養は増加し、ショートステイは減少しています。これは、食数の変動によるものです。また、今年度も、野菜類や乾物類、米の価格が高いままで、食材の代替えを検討し、適切な栄養量や満足ある食事を提供することに努めました。

8. 喫茶「ぽぷら」

・月2回さわやか委員会で実施し、メニューは、プリンアラモード、ワッフル等、洋菓子も和菓子も楽しめるようにメニューを考えました。また、旬の果物を使い季節感を出し、馴染みがあるスイーツを提供しました。

9. 食事に関する研修会

・「口から食べる」ことの大切さをさわやか委員会と協同し実施しました。

10. 衛生管理について

・家庭でできる食中毒予防の6つのポイントやHACCPの考え方を取り入れた衛生管理をもとに毎日点検し衛生管理に努め、感染対策委員会内で食中毒関連の情報を共有し、予防を呼びかけました。

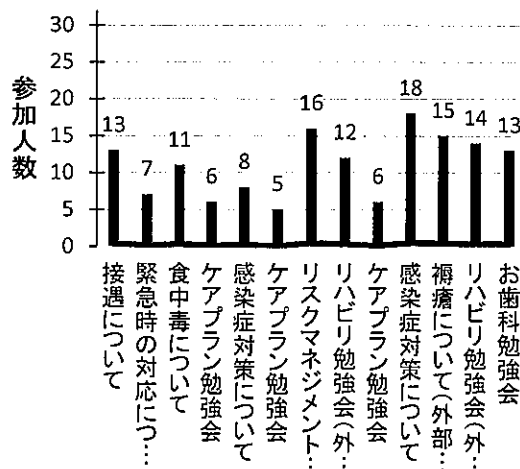
・食中毒予防や感染症対策について感染対策委員会と協同して勉強会をしました。

八戸素心苑内研修会
定例勉強会

32

日付	内容	参加者 合計	参加率
4月15日	接遇について	13	41%
4月17日	緊急時の対応について	7	22%
5月14日	食中毒について	11	34%
5月30日	ケアプラン勉強会	6	19%
6月4日	感染症対策について	8	25%
6月19日	ケアプラン勉強会	5	16%
7月3日、31日	リスクマネジメントについて	16	50%
8月21日	リハビリ勉強会（外部講師）	12	38%
10月2日	ケアプラン勉強会	6	19%
11月28日12月23日	感染症対策について	18	56%
12月8日	褥瘡について（外部講師）	15	47%
1月23日	リハビリ勉強会（外部講師）	14	44%
2月27日	お歯科勉強会	13	41%

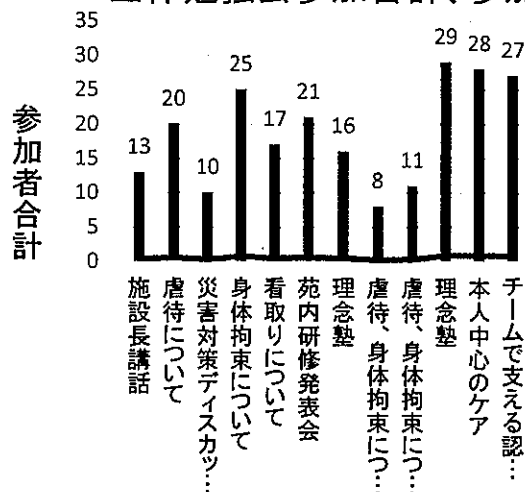
定例勉強会参加合計、参加率



全体勉強会

日付	内容	参加者 合計	参加率
4月1日	施設長講話	13	37%
5月13日、23日	虐待について	20	57%
6月3日	災害対策ディスカッション	10	29%
7月1日、17日	身体拘束について	25	71%
8月7日	看取りについて	17	49%
9月4日	苑内研修発表会	21	60%
10月14日	理念塾	16	46%
11月20日	虐待、身体拘束について	8	23%
12月29日	虐待、身体拘束について	11	31%
1月8日、20日	理念塾	29	83%
2月3日、18日	本人中心のケア	28	80%
3月3日、19日	チームで支える認知症ケア	27	77%
3月21日	看取りについて	16	46%

全体勉強会参加合計、参加率



外部研修会・リモート研修

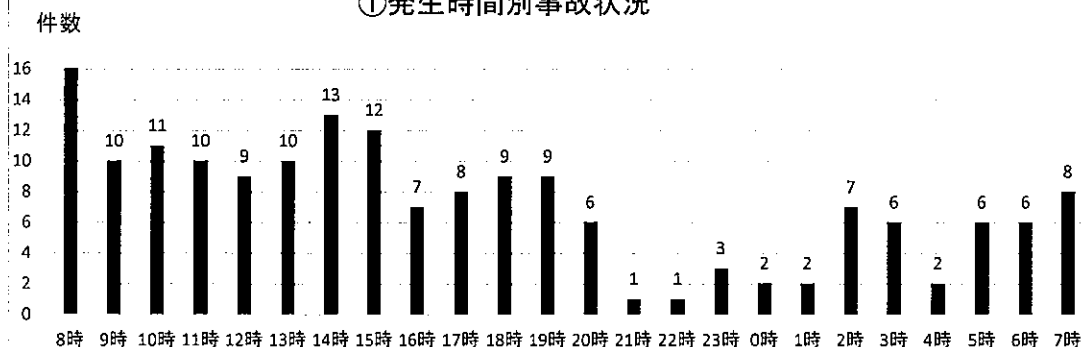
日付	内容	参加者合計
R7 5/14~15	オムツフィッター 3 級研修	2
R7 6/15	あおもり介護生産性向上推進セミナー	1
R7 6/18~20 6/23~27	青森県喀痰吸引等研修	2
R7 6/22	介護事例研究発表会	1
R7 6/30.7/1.7/11	認知症実践者研修 報告会	1
R7 7/16	コレステロールが高い方必見 丈夫な血管を保つ方法	1
R7 8/30	青森県感染対策特別研修会	2
R7 9/3.4.10.11 11/28	認知症実践リーダー研修	1
R7 9/30	ユニットケアセミナー	3
R7 10/29	2025年度第2回ユニットケア研修等事業関係者連絡会	3
R7 11/21	ノロウイルス食中毒予防と対策講習会	2
R7 12/17	実習指導者会議 (zoom)	1
R8 1/26	受け入れ担当者説明会 (zoom)	1
R8 2/9.10	ファシリテーター (zoom)	1
R8 3/23	更新調査説明会 (zoom)	1

今年度のまとめ

- ①定例勉強会参加率は各部署（勤務上作成時点）で差異が大きかった。
- ②外部研修は興味のある研修、知識感心・施設加算関係など目的に応じて計画的な参加を促して参加率の向上を図る。
- ③特に外部講師による研修に関しては極力参加できる体制づくりを具体的に検討する必要がある。

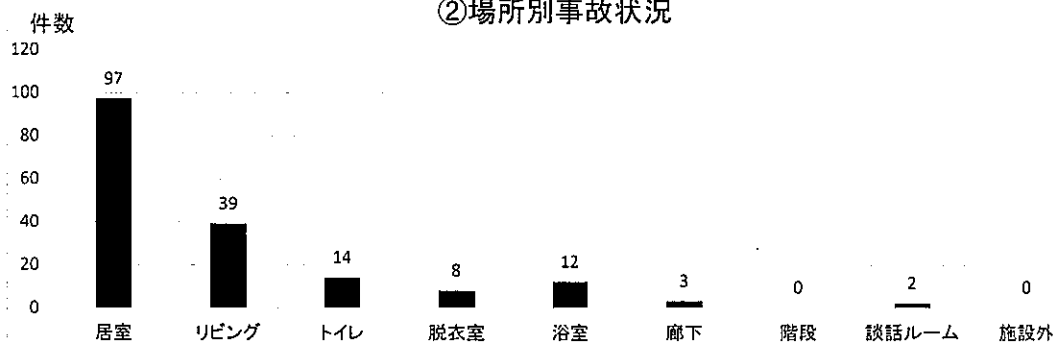
事故対策委員会活動報告 八戸素心苑 事故報告

①発生時間別事故状況



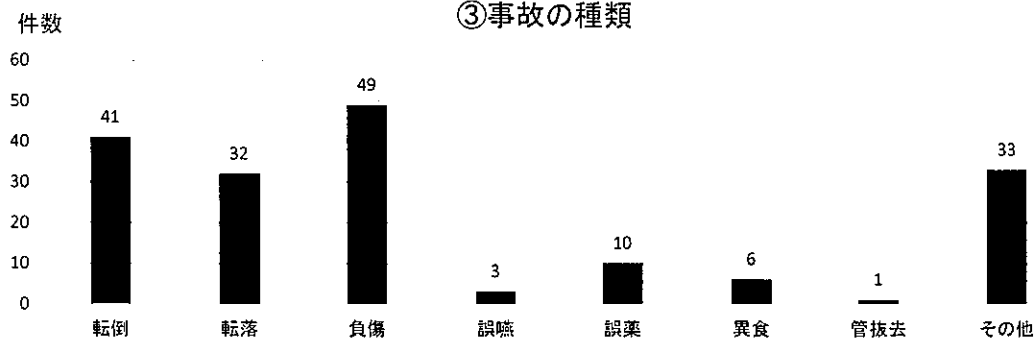
発生時間別では日中が多く見られています。朝8時は支援員が一人の時に多く見て取れます。

②場所別事故状況



昨年と同様で居室、リビングで多く見られています。また、浴室での内出血痕が多いようです。

③事故の種類

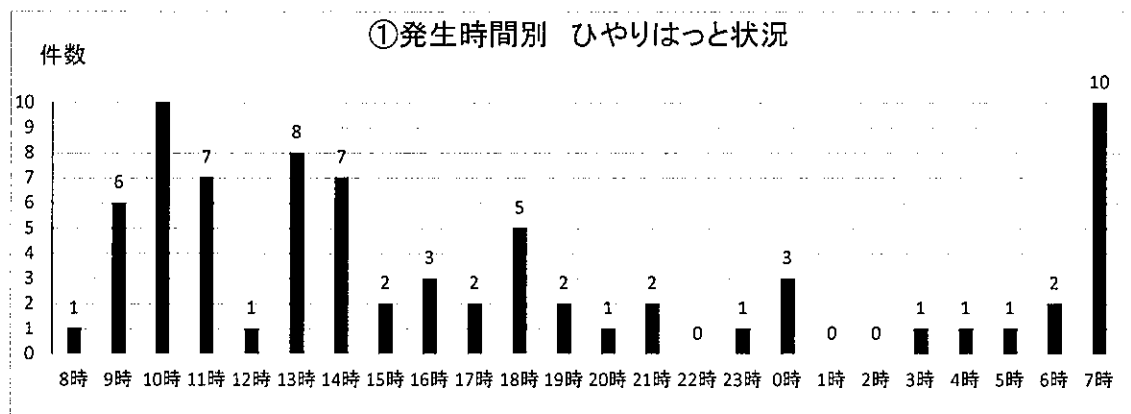


善では転倒、聖では転落、真では負傷(内出血など)が見受けられます。各ユニットでの支援の周知、統一が求められます。

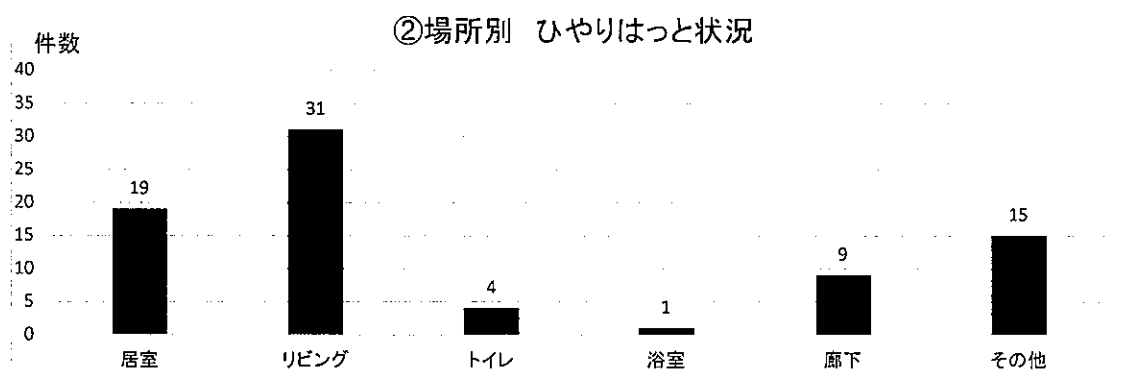
『まとめ』 行政事故報告件数2件(左大腿部遠位端骨折、コロナ感染者10名以上)

今年の事故発生件数は175件で昨年より9件減少しています。負傷(内出血)、転倒が多く見られています。また、同じ入居者、利用者が繰り返し転倒、転落している事故が多かったことが要因に挙げられます。ヒヤリハットの発見に力を入れ、事故を未然に防ぐように努力をしていきます。

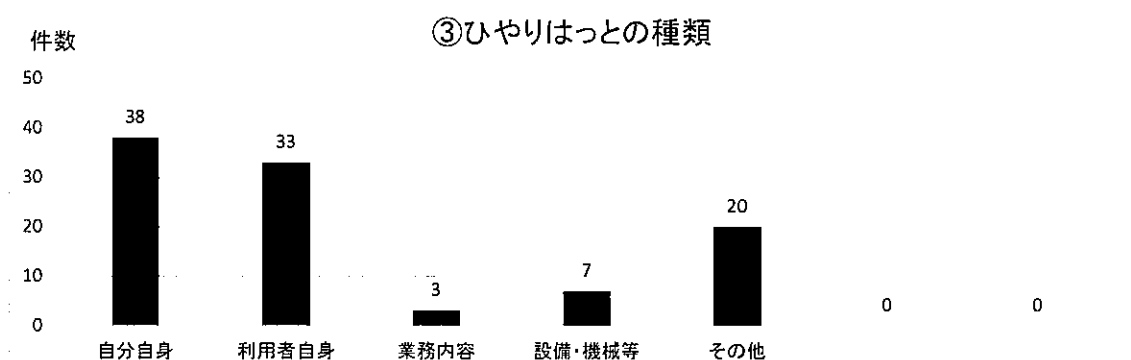
事故対策委員会活動報告 八戸素心苑 ひやりはっと



発生時間別でみると7時、10時、13時、に多く見られている状況です。



場所別でみるとどのユニットでもリビング、居室が多く見られている。また、廊下、その他でも見られるようになっている。



種類としては自分自身(支援員)が多く見られています。支援員が危険を感じ取れているということがわかります。

『まとめ』

報告件数は49件で、前年度よりは12件減少しました。ヒヤリハットに対して意識が薄れてきているように感じます。大きな事故を未然に防ぐためにも支援員一人一人がしっかりと意識できるように努力をしていきます。

オレンジ委員会（認知症・虐待・身体拘束） 活動報告 八戸素心苑

《苑内勉強会》

月	テーマ	内容	勉強会参加人数
5 月	虐待について	虐待、不適切ケアについて	20 名
7 月	身体拘束について	身体拘束について	25 名
9 月	認知症について	認知症サポーター養成講座を開催する	12 名
11～12 月	身体拘束・虐待について	虐待、不適切ケア、身体拘束について	19 名
1～2 月	虐待について	虐待について（認知症編）	29 名
3 月	認知症について	認知症について	27 名

◆委員会検討内容

- ・各ユニット内での入居者や利用者との関わりや支援についての課題を、ユニット毎にとり組んだ結果の報告、解決に至らなかった課題を委員会開催時に検討しています。
- ・支援員からの疑問、質問、対応についてなどを随時受け止め、入居者や利用者との関わりについて”素心苑の考え方”を基に各ユニットに発信しています。

◆認知症について

昨年に引き続き外部講師を招いて「認知症サポーター養成講座」を開催し、入居者のご家族や地域の方も参加されました。外部研修で認知症についての研修に、委員会から1名参加しました（苑内では計2名）。学んだことを次年度の研修に役立てていきたいと思います。次年度も一人ひとりが知識を付けて、ユニット毎に支援方法等で困っていることを解決出来るようにアドバイスしたり発信していきます。

◆虐待について

- ・不適切なケアに近い対応に関しては数件報告がありました。当該ユニット内で話し合いや指導をし、改善されています。今後も不適切なケアがあった際は委員会でも原因分析や対応を話し合い、改善に努めていきます。
- ・虐待通報1件ありました。委員会としては虐待の芽チェックリストを苑内職員全員を対象に実施（今後は年2回実施予定）、追加アンケートを実施し部署毎での対策や取り組みの発信と委員会開催時に経過報告の体制づくり、虐待の勉強会を追加し実施、虐待発生時の報告手順作成中です。今後も再発予防や対応を話し合い、防止や改善に努めていきます。

◆身体拘束について

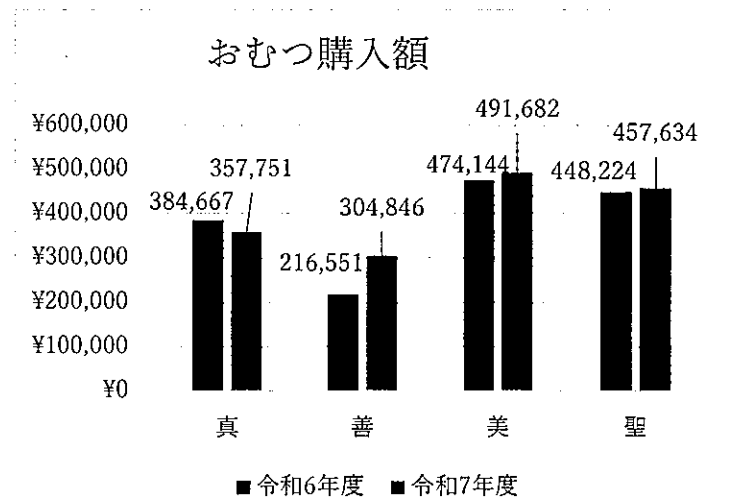
身体拘束（合計2件） 対象ユニット：善の家（ショートステイ）

- ・今年度の身体拘束は、特養0件でした。
- ・善の家利用で、夜間センサーマットを使用された方が1名いました（新規ご利用で自宅にて使用しており、苑でも慣れるまでの2か月間の利用時に使用）。30分毎の巡視、排泄パターンや生活パターンの把握を行い、現在はセンサーマット使用をせず利用出来ています。
- ・身体拘束の考え方の認識が苑内の職員で違うことが分かり、身体拘束について”素心苑の考え方”の知識をつけ来年度は発信していきます。

1. 排泄について

1) おむつ購入総額の一覧表

	令和6年度	令和7年度	増減
真	384,667	357,751	-26,916
善	216,551	304,846	88,295
美	474,144	491,682	17,538
聖	448,224	457,634	9,410
全体	1,523,586	1,611,913	88,327



全体的に前年より9万円程度排泄用品の金額が増加しました。理由として感染対策の対応、看取りの対応によりパットの大きさや使用頻度が増えたこと、パットの価格が高騰したことが要因として考えられます。しかし、その中でも、1人1人の排泄データ表を作成し、尿測を実施しました。それにより、パットの大きさの検討ができ、トイレ案内や下着にパットへの意識が向上したと思われます。また、より1人1人に合わせた排泄支援を行うため、パットの種類の検討もしました。

2) 各ユニットの取り組み

【真の家】 入居者 10名 要介護3:1名 要介護4:5名 要介護5:4名 平均介護度 4.4 (排泄支援状況)

- ・下着にパット 8名。下着だけ 2名。 尿カテーテル1名。
- ・ベット上でのパット交換 2名。トイレ案内 8名 (2人支援2名)
- ・排便は8名トイレ案内をしています。

(取り組み)

- ・個々の排泄状況パット番数を把握する為尿測を行うことです。
- ・体調変化あるときは都度尿測を行いパットの見直しをすることです。
- ・自然排便に繋げる為、医務と相談し排便サポートをすることです。

(結果)

・尿測を行い個々の生活パターンを把握でき、支援員で共有する事で、トイレ案内でき排便、排尿の失敗が減りました。来年度は自然排便につなげるようにしたいです。

【善の家（ショートステイ）】

（排泄支援状況）

・布パンツ、テープ止めオムツ、リハビリパンツ、ポータブルトイレ使用され色々な方が利用されています。

（取り組み）

・自宅での排泄スタイルを継続できる様に、送迎時に家族から下剤の使用間隔など伺い、情報の共有をし支援しました。

（結果）

・夜間のパット交換や日中のトイレ案内の声かけなど、情報共有する事で漏れを少なく抑える事が出来、パットの使用数を減らす事が出来たので来年度も続けていきます。

【美の家】 入居者 9 名 要介護 4：4 名 要介護 5：5 名 平均介護度 4.6

（排泄支援状況）

・下着にパット 7 名 紙パンツにパット 2 名

・ベッド上でのパット交換 4 名（うち経管栄養者 2 名） 他 5 名 トイレ使用

（取り組み）

・尿測やパット選びをしその方に合った排泄時間や排泄物品の使用に努めました。

・各担当が中心となって排便コントロールについて検討し実践しました。

（結果）

・尿測を行い、排泄時間やご本人に合った排泄物品を把握できました。

・薬だけに頼らず、オリーブオイルや納豆、ヨーグルト、オリゴ糖、きなこなどの食べ物や飲み物によって排便を促したり、薬のコントロールについても医務と相談し実践する事ができました。

【聖の家】 入居者 10 名 要介護 3：2 名 要介護 4：5 名 要介護 5：3 名 平均介護度 4.1

（排泄支援状況）

・下着にパット 7 名

・リハビリパンツにパット 3 名→今後布パンツへ検討

・ベッド上での交換 2 名（1 名経管栄養・1 名排便は体調を見てトイレ利用）

トイレ利用 3 名、尿カテーテル 1 名、トイレ利用＋ベッド上での交換 4 名

（取り組み）

・1 名排便コントロールの為、2 日に 1 回浣腸施行している。（夜間や日中の不穏無くするため）
排便状態に執着がある入居者さんの下剤の調整を、看護師と相談しながら行っています。

・乳製品を取り入れたりトイレ案内をし、自然排便が出来るよう職員全員で入居者さんの排泄状況を共有しています。

（結果）

・排泄をコントロールすることで、夜間不穏なく過ごされています。

・定期的なトイレでの排便が来ています。

2. 食事について

1) 各ユニットの取り組み

【真の家】 入居者 10名 要介護3:1名 要介護4:5名 要介護5:4名 平均介護度 4.4
(取り組み)

- ・入居者の食べたいごはんを聞き取り、ユニット調理を行いバイキング形式で食べたいものを選んで楽しく召し上がっていただきました。

(結果)

- ・入居者の好みや以前に作って食べていた物を思い出し一緒に作り外食をしたような雰囲気ですく食事をすることができました。

【善の家（ショートステイ）】

(取り組み)

- ・利用者と一緒に食事を作り、作る楽しさや感謝を伝えました。

(結果)

- ・利用者に食材をカットして頂いたり、作り方を教えて頂いたり、また出来るだけ毎日盛り付けなどして貰い感謝を伝える事で自宅では出来なかった事を思い出して貰い楽しみを増やす事が出来ました。

【美の家】 入居者9名 要介護4:4名 要介護5:5名 平均介護度 4.6

(取り組み)

- ・食事を目で楽しみ、好きな物を楽しい雰囲気ですし上がっていただきました。

(結果)

- ・ユニット調理やおやつ作りでは見た目も楽しめるような盛り付けをしました。
- ・入居者の好きな物をアセスメントし、希望に近づけるようなメニューを選び、楽しめる食事をする事が出来ました。

【聖の家】 入居者 10名 要介護3:2名 要介護4:5名 要介護5:3名 平均介護度 4.1

(取り組み)

- ・食べる楽しみを奪わず、楽しみながら職員も一緒に食べました。

(結果)

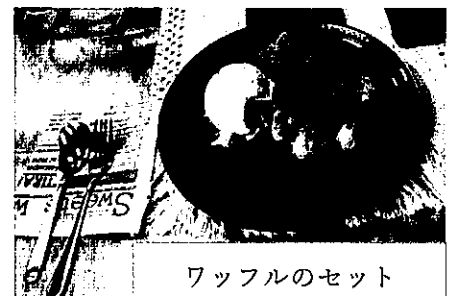
- ・入居者の食べたい物をお聞きし、担当職員と一緒にとくし丸や近所のスーパーなどに買い物に行くことができました。

- ・ユニット調理では海鮮物が人気で、年に何度か海鮮丼や手巻き寿司等を提供しています。その他のユニット調理も人気で大変喜ばれています。今後色々な食事を提供し楽しく食べる大切さを伝えていきます。

2) その他

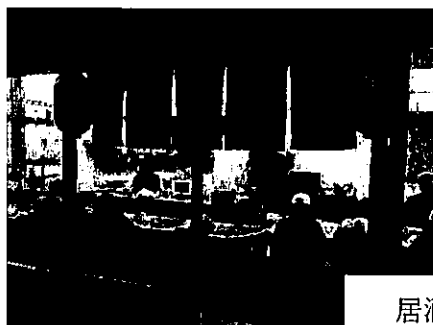
①喫茶「ぽぷら」開店

- ・今年度は、感染症も落ち着き月2回開催できました。平均人数は、19名でした。
- ・メニューは、ワッフルやチーズケーキ等洋菓子から、あんみつ等の和菓子まで、バリエーションを多くし、楽しんでいただけるようにしました。また、季節の果物等を使って季節感があるように工夫し提供しました。
- ・前回同様、メニューの種類は1種類だが、ソースを選べるようにして盛り付けることで選べる楽しさを追加し工夫しました。
- ・喫茶の運営に関しては、何度か検討し、さわやか委員会のメンバーで今年度は実施しました。ただ、1人1人の負担が大きいという意見もあり、来年度からは、苑全体で喫茶を運営していく予定です。
- ・地域の方の周知は今年度できませんでした。ただ、認知症サポーター養成講座を実施した際に、講師の方々やご家族がそのまま喫茶に参加する環境を作り実際、入居者と参加されたご家族の方もいらっしゃいました。
- ・地域の人への周知については、状況によって検討していきたいです。



②居酒屋「よりどころ」開店

- ・今年度、居酒屋を6月、10月、3月を年に3回実施した。(喫茶店の代替として)
- ・甘いものだけではなく、「お酒が飲みたい」という入居者も多く、初回は、全員参加で実施したが、お酒の場が苦手な方もいらっしゃいました。
- ・2回目の居酒屋では、アンケートを実施し、参加したい人を事前に募り、入居者10名程度参加されました。
- ・開店時間は、16時～18時までで、19時には片付けまで終了すること目標に実施しました。普段と違う場所で食事を楽しむため、「もっといたい」という方もいらっしゃいました。時間の検討が必要と考えます。



居酒屋の様子

4. 口腔ケアについて

各ユニットの取り組み

【真の家】

(取り組み)

- ・ 歯科医、他職種の見聞を聞き、個々にあった口腔ケアに繋がりました。

(結果)

- ・ 入居者個々で指摘された所は支援員が共有しケアを行う事が出来ました。
- ・ 噛み合わせが悪く義歯を新しく作りました。(1名)

【善の家】

(取り組み)

- ・ 利用者一人一人の情報を共有し、衛生的に口腔ケアを行いました。

(結果)

- ・ 義歯を調整したいという利用者に歯科往診をして頂きました。
- ・ 歯磨きなど利用者任せで職員が確認出来ていなかった事もあり、来年度は統一した支援が出来る様に話し合っていきたいです。

【美の家】

(取り組み)

- ・ 嚥下や咀嚼について分からない事は専門家の意見を聞き、口腔ジェルのアドバイスをいただきケアをしました。

- ・ 本人の希望があり1名義歯作成を行いました。

(結果)

- ・ 各担当が日々のケアについて分からない事や不安な事を専門家に聞き、ユニットメンバーや看護師と共有し正しいケアを行いました。
- ・ 食べる楽しみにつなげたいとの本人の希望により、義歯作成を行っている途中です。

【聖の家】

(取り組み)

- ・ 経管栄養で寝たきり状態の入居者さんは、口腔内の乾燥を防ぐ為、粘膜ブラシできれいにした後、口腔ジェルを使用し乾燥を防ぎ、支援員で統一したケアを行いました。

- ・ 部分義歯を飲み込んでしまう事故が発生してから、食事前後に義歯の確認しています。
- ・ 歯科医師や衛生士さんのアドバイスを聞き、義歯の洗浄の仕方やブラシの使い方を実践しました。

(結果)

- ・ 歯科衛生士さんに指摘されたことなど、支援員で共有しケアを行いました。

広報委員会 活動報告 八戸素心苑

《目的》

令和7年度の標語「みんなの笑顔、家族に届け♪」を念頭に活動を通して入居者・利用者の思いを実現するために施設内で出来ることを行っていく。

《活動目標》

- (1) 季節ごとにイベント・クラブ活動を計画し、実施・定着させる。
- (2) 季刊誌は四季ごとに（年4回）を発行する。
- (3) ホームページ、SNSの更新を定期的に更新する。

《活動報告》

- (1) 入居者・利用者の意向を基に月3～4回のクラブ活動の計画を立て実施した。

また、希望を伺い、春の花見ドライブと秋の紅葉ドライブを行った。

（取組）季節ごとのイベントやクラブ活動を計画し、実施・定着させる。

- (1) 定期的なクラブ活動・イベントを開催

将棋クラブ（4月～10月）、お花クラブ（4月～9月）、お茶クラブ（9月～3月）、映画クラブ（10月～3月）

体操クラブ（4月～3月）、カラオケクラブ（12月～3月）、お花見ドライブ（4月・5月）、紅葉ドライブ（11月）

（結果）

- ・将棋クラブは毎回1～3名の参加でしたが、ゆっくりと何局か指すことがことができ、楽しんで頂けた。
- ・他のクラブには毎回10名以上の参加があり、毎回参加して下さる方も多かった。
- ・ドライブに関しては、春・秋共に感染対策の為、数便中止になってしまったが、行先の聞き取りを行い好天に恵まれたこともあって喜んで頂くことができた。

- (2) 年4回の季刊誌（八戸素心苑便り）を発行。

（取組）各号担当を決め作成に当たる。また、普段の生活の様子なども写真に残し管理する。

（結果）

- ・作成途中での委員の改変・移動の影響もあったが、皆で協力して発行することができた。
- ・クラブ活動中、付き添いが必要な方の支援が多く、中々写真を撮ることが出来ないことも多かった。今後は、クラブ活動開催する日は決まっているので、他職種や支援員にお願いし写真を撮ってもらうように声掛けする。

- (3) ホームページの内容の充実を図る。Instagramの定期的更新。

（取組）Instagramの更新や投稿を積極的に行う。委員全員が投稿できるようになる。

（結果）

- ・年度後半はInstagramへ投稿は、ほとんど出来ていなかった。委員会の中でInstagramのやり方を教えてもらい、直ぐにできるようにした。委員会開催日に投稿する時間を設け行った。

《結 果》全体を振り返って

クラブ活動は、元々やってみたかった方、後から興味を持たれた方、様々いらっしゃいます。企画の段階では、少し難易度が高いのではないかな？体力的にきついのではないかな？無理に声掛けをし来て頂いているのではないかな？などと考えさせられますが「良かったよ」「楽しかった」「また来たい」と言って頂くことが多く聞かれるようになりました。こういった活動をInstagramに投稿出来ればよかったが数枚ほどしか出来なかったため苑の活動を投稿出来るように心がける

《今後の取り組み》

- ・季刊誌の作成は継続し、作成後はホームページに掲載する。投稿はクラブ活動に関わらずに積極的に行う。
- ・意向に基づいたクラブ活動の開催・定着を目指す。
- ・入居者・利用者楽しんで頂くためのイベントを可能な限り実現していく。

感染・褥瘡対策委員会 八戸素心苑 活動報告

<感染対策委員会>

1. 目標: 苑内感染を発生させない。

2. 活動内容

1) 感染症の予防と対策について勉強会の実施

テーマ	実施月	参加人数
食中毒	5 月	11 人
感染症の予防と対策について	6 月	8 人
感染対策について (ノロウィルスを中心に)	12 月	18 人

2) ユニットでの感染対策の確認と励行

① ユニットや苑内の掃除状況確認のラウンドをチェック表を基に5回行い、普段は見落とし
ている場所などの掃除の改善に繋がりました。

② 委員が中心となって換気の声掛け、加湿器の管理等を実施していました。

③ 感染対策マニュアルを修正し、各種マニュアルに綴じました。

3. 評価 : 11 月に入居者 11 名・職員4名が新型コロナに感染。前回の感染から約 1 年経過
していたこともあり、新型コロナ発生時の対策が迅速に行われなかった。今後もマ
ニュアルの整備、研修などで内容の周知に努める。

<褥瘡対策委員会>

1. 目標: 褥瘡予防に努める。

2. 活動内容

1) 勉強会の実施

12 月に「褥瘡予防について」の研修を皮膚排泄ケア認定看護師よりしていただき、15
名が参加。褥瘡予防について学びを深めることが出来た。

2) 委員会内で皮膚トラブルについて原因・対策についての検討

R7 年度の新規褥瘡は 5 名発生。大腿骨骨折後の方と脳梗塞発症後の方は効果的な
体位変換ができなかった、終末期の方は入浴時のスリングのネットによる発生、車椅子の
部品に下腿が当たっていた事による発症、入院中にできた方でした。

3. 評価 : 退院後・発熱時などの発症が多かったことから、状態変化時には褥瘡発生リスクの
アセスメントをしっかりと行い、発生予防を目指したい。

五戸・八戸間でエアーマットの貸借手順を作成し、活用することができた。

業務改善向上委員会活動報告 八戸素心苑

1, 目標 ①負担の無い、安全な支援を探る。

- ・支援する側、支援される側、両方が安全で身体に負担が少ない方法を学ぶ為の勉強会を行う。
- ・ユニット内、居室内に生活する中で危険が無い様5Sを参考に安全に配慮した環境作りを目指す。

②職員同士のコミュニケーションを円滑に行う。

- ・勤怠の変更は当事者が早期に記載・提出する。

2, 結果

①理学療法士による勉強会を行い、入居者と支援員の安全な支援方法を学ぶことができた。次年度は回数及び参加率の向上を図り、より多くの参加と技術の向上を目指す。

②勤務変更の届け出は日誌への記入漏れと本部へ届くまでのタイムラグが発生した。情報共有はノートに記載不足等で伝達方法の改善が危惧された。次年度はより効率的な共有方法を学習して報告、連絡、相談の改善を図る。

3, 各部署（ユニット）評価

【真の家】

理学療法士より入居者の移乗方法やスライディングボード活用でより安全な移乗方法を学んだ。また、ユニットのリビングの設えは安全な入居者の動線を考えることができた。今後も申し送り方法の改善に努める。

【善の家】

適宜スライドボード等を使用した体験型研修会や2人支援の利用者に対する支援方法の学習を実施したが安全優先で支援方法に配慮が欠如する場面が多々あった。ハード面・ソフト面の見直しを行い、安全安楽な支援を実施していく必要があると感じた。今後は、記載事項のルールも踏まえて日誌及び連絡ノートの活用方法に取り組んでいく

【美の家】

外部講師より移乗やポジショニング等の支援方法や暮らしの場のより安全性も含めた設えを整備できたこと。さらに、申し送りノートの活用方法（アンサー形式）がコミュニケーションツールとして活用でき、大きな改善でした。

【聖の家】

外部講師（理学療法士）の実演指導で体位交換や身体に負担のかからない支援方法の実践指導が役立った。また、職員同士の関係性の改善に関してはユニット会議の課題を掲げ、公私の区別でなれ合いを避けて自覚を持った支援ができた。

4, 今後の取り組み

- 1) 理学療法士による勉強会は好評である。研修回数や時間を増やしたい。
- 2) 本部とのタイムラグ短縮。基本は各自が届け出期日厳守方法を探る。
- 3) 申し送り・共有方法については、ノートの有効活用方法を更に具体化してスムーズに業務を行うための改善を継続する。